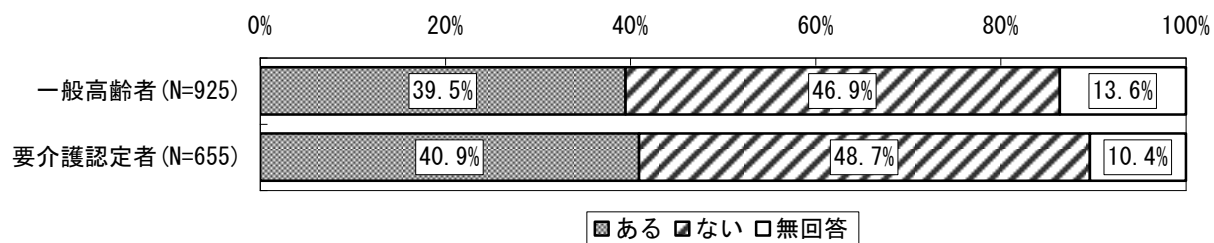


10. 対象間比較調査の結果

1 基本属性

(1) 昼間独居

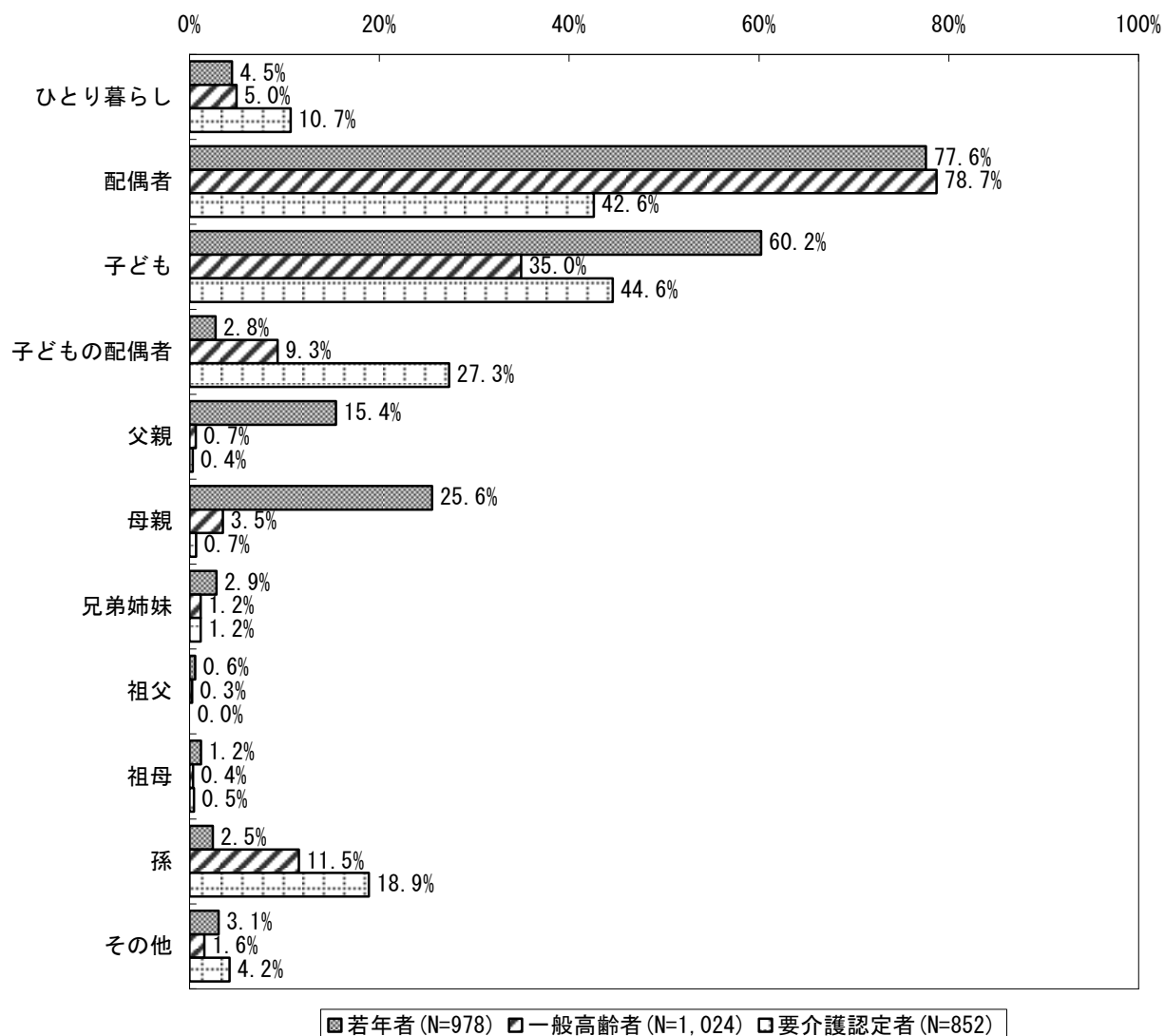
図表579 昼間独居の有無



昼間に自宅で一人になることの有無については、一般高齢者の39.5%、要介護認定者の40.9%が「ある」と回答しており、大差はない。

(2) 同居している家族

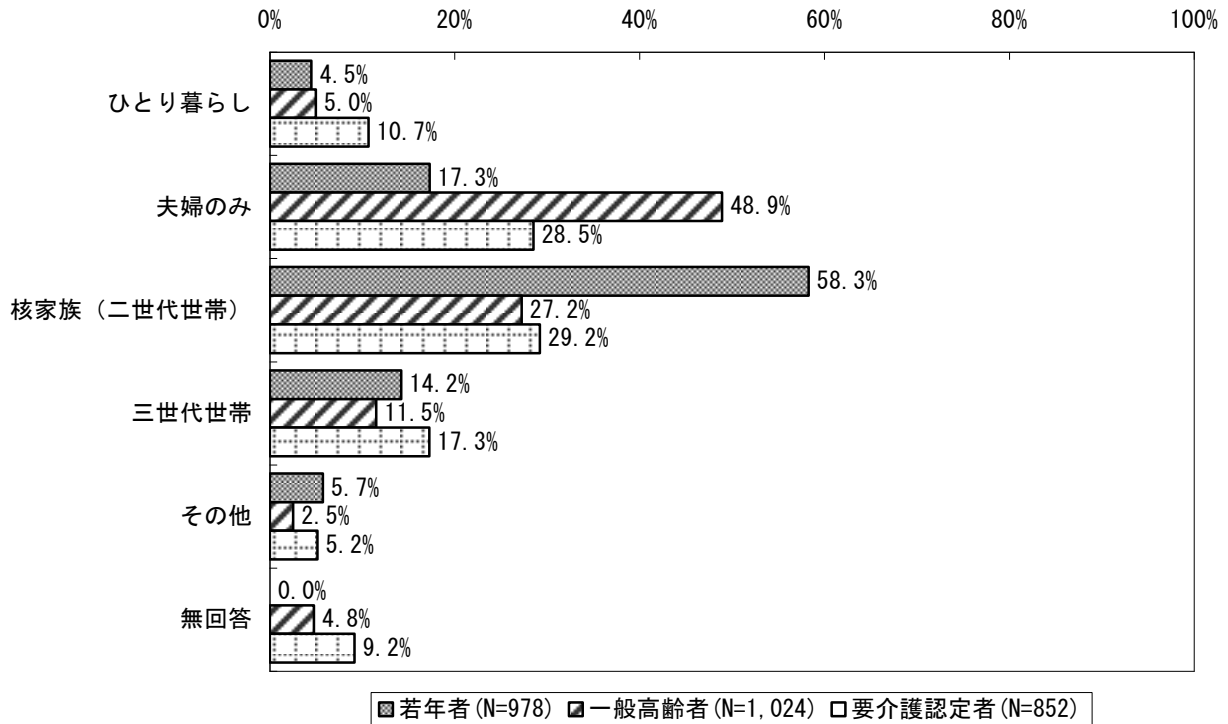
図表580 回答者の同居家族（複数回答）



同居家族については、若年者では「配偶者」が77.6%で最も多く、以下、「子ども」が60.2%、「母親」が25.6%などとなっている。一般高齢者では「配偶者」が78.7%で最も多く、以下、「子ども」が35.0%、「孫」が11.5%などとなっている。要介護認定者では「子ども」が44.6%で最も多く、以下、「配偶者」が42.6%、「子どもの配偶者」が27.3%などとなっている。

【家族構成】

図表581 回答者の家族構成

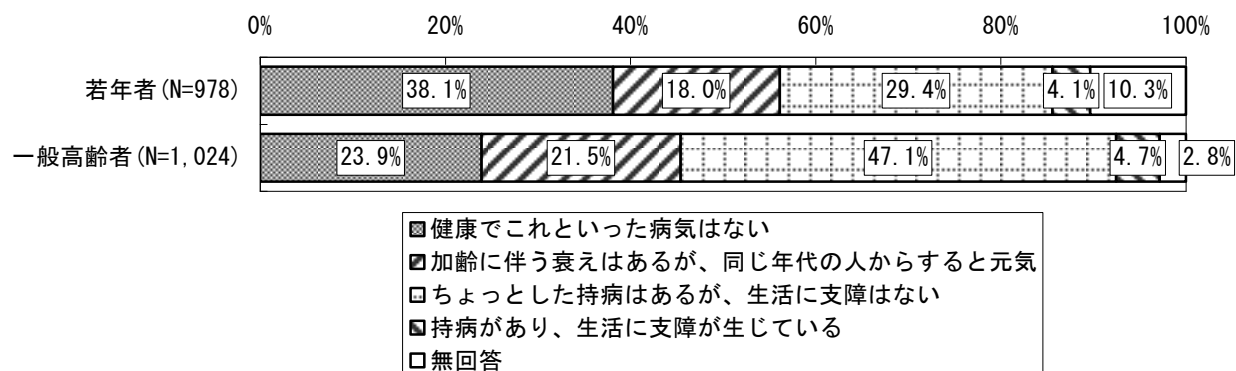


家族構成について回答を再割当したところ、若年者では「核家族（二世帯世帯）」が58.3%で最も多く、以下、「夫婦のみ」が17.3%、「三世帯世帯」が14.2%、「ひとり暮らし」が4.5%となっている。一般高齢者では「夫婦のみ」が48.9%で最も多く、以下、「核家族（二世帯世帯）」が27.2%、「三世帯世帯」が11.5%、「ひとり暮らし」が5.0%となっている。要介護認定者では「核家族（二世帯世帯）」が29.2%で最も多く、以下、「夫婦のみ」が28.5%、「三世帯世帯」が17.3%、「ひとり暮らし」が10.7%となっている。

2 心身の状況

(1) 健康状態

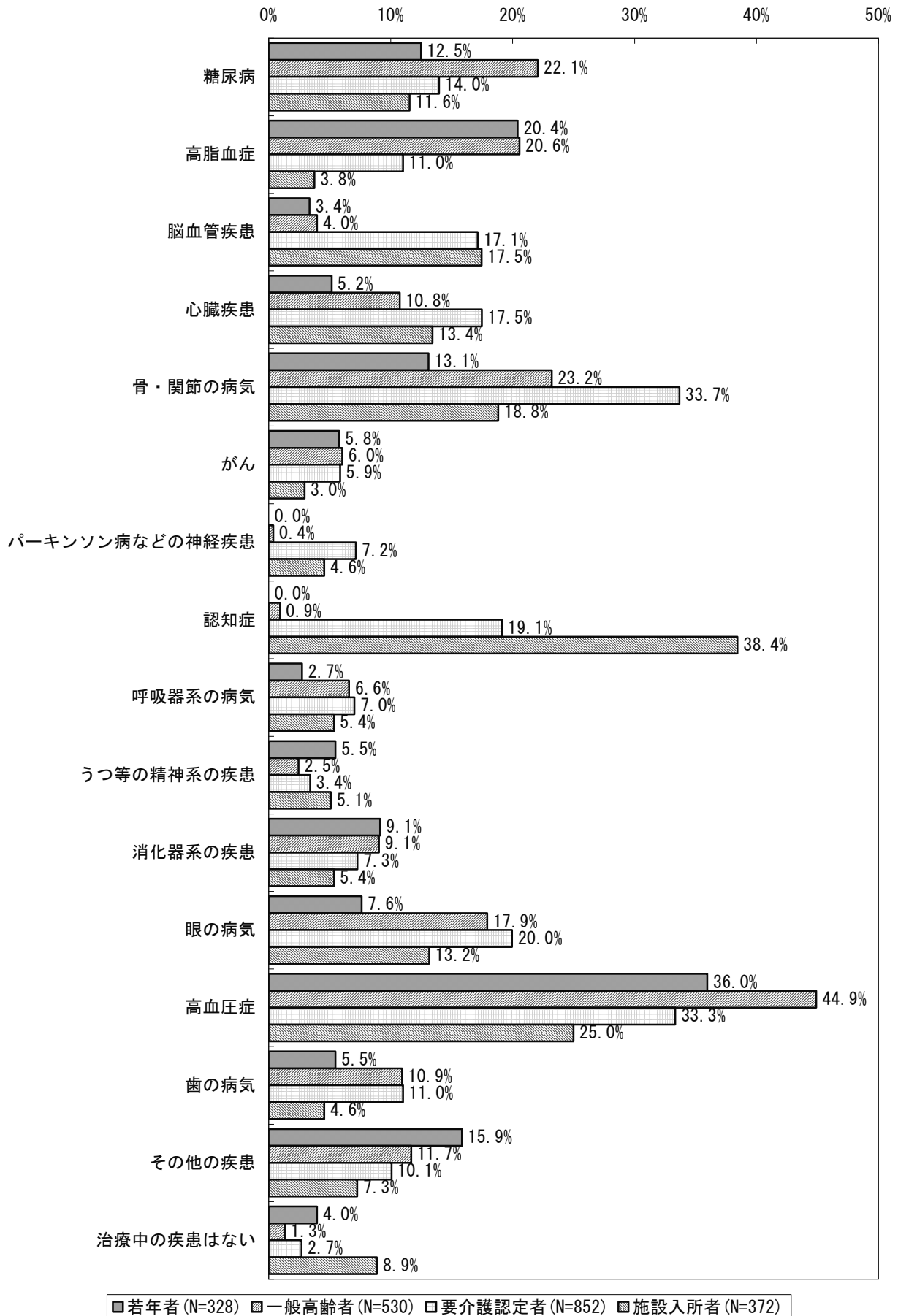
図表582 今の健康状態



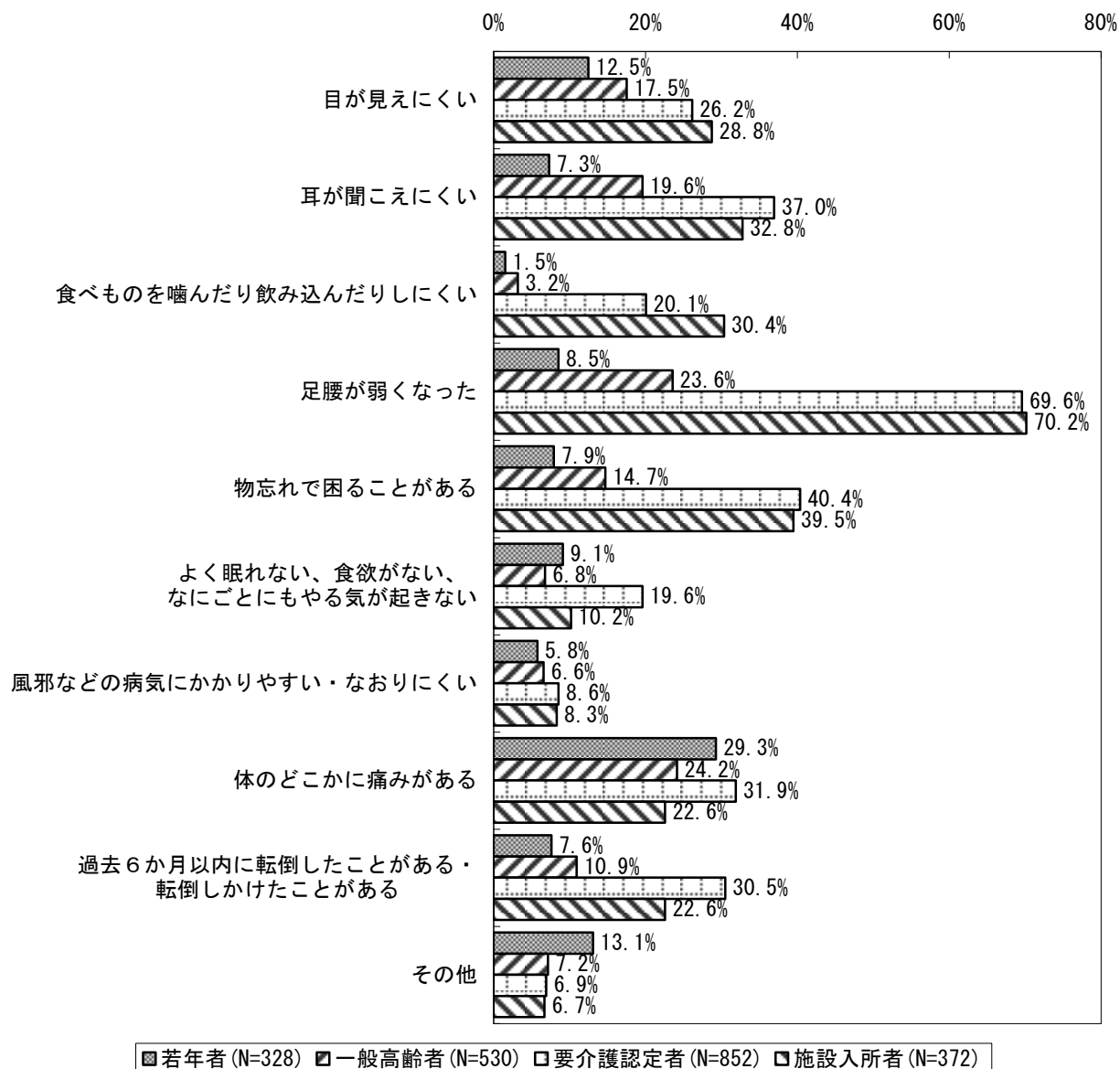
今の健康状態については、若年者では「健康でこれといった病気はない」が最も多いが、一般高齢者では「ちょっとした持病はあるが、生活に支障はない」が最も多く、一般高齢者が若年者に比べて健康状態に不安を抱える人が多い。

(2) 治療中の疾病や体の状態

図表583 治療中の疾患（複数回答）



図表584 体の状態（複数回答）



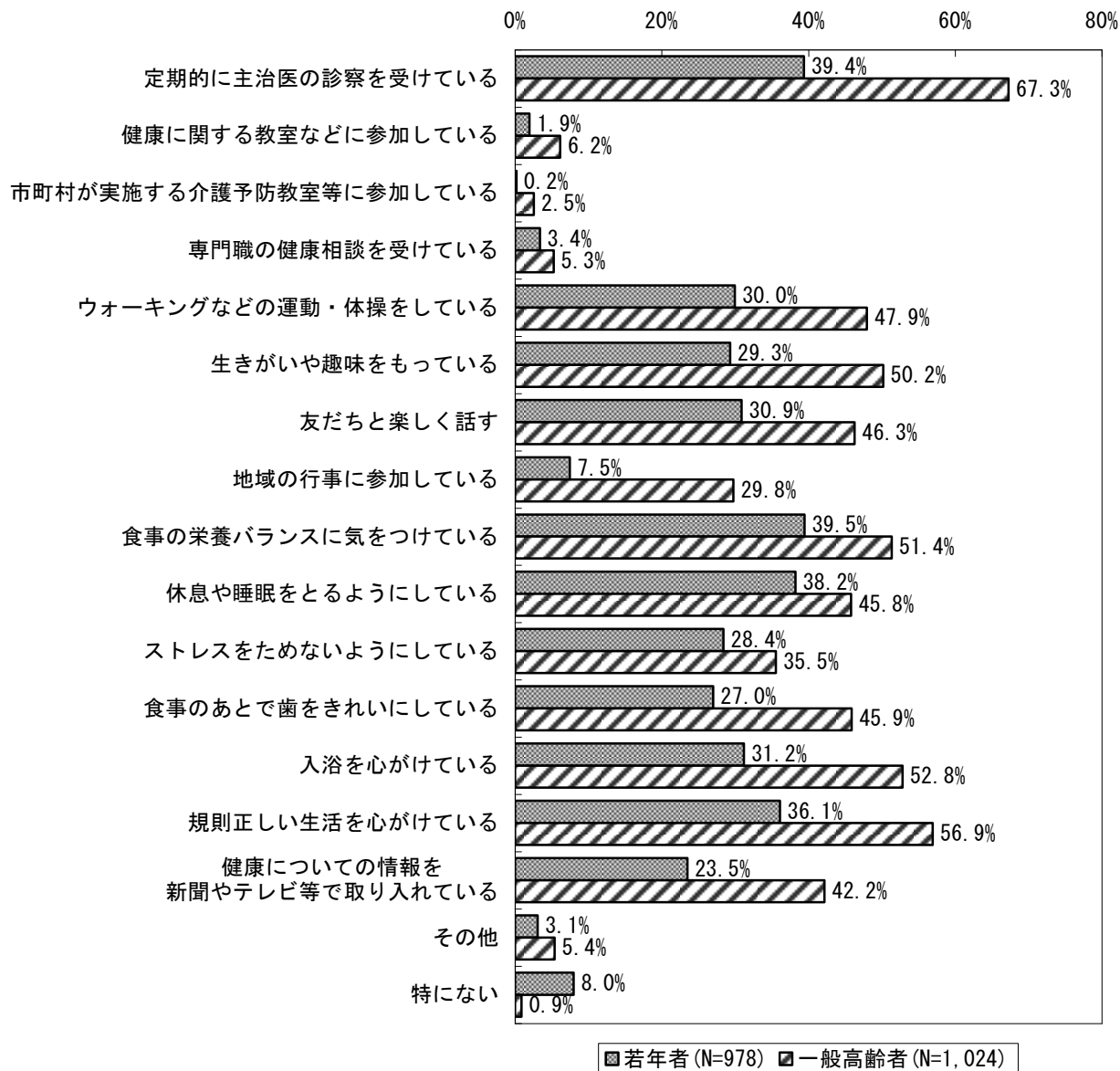
現在治療中の疾患については、若年者と一般高齢者では「高血圧症」、要介護認定者では「骨・関節の病気」、施設入所者では「認知症」がそれぞれ最も多い。

現在の心身の状態については、若年者と一般高齢者では「体のどこかに痛みがある」、要介護認定者と施設入所者では「足腰が弱くなった」がそれぞれ最も多い。いずれの状態についても、若年者と一般高齢者に比べて要介護認定者と施設入所者が多い傾向がみられ、加齢に伴う衰えとともに要介護状態であることが背景として考えられる。

3 健康づくり・健康管理

(1) 健康維持のために心がけていること

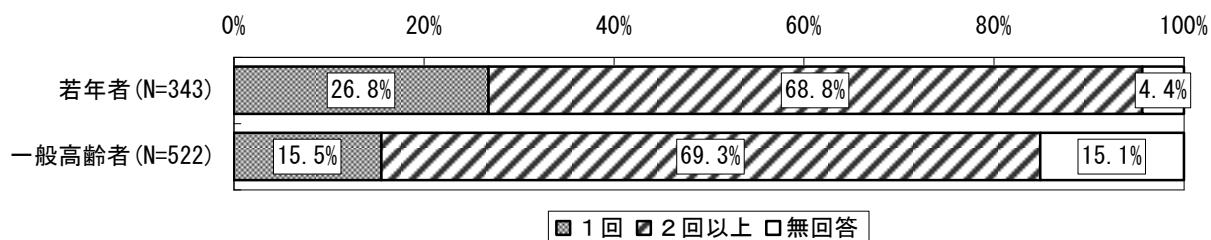
図表585 健康維持のためにしていること（複数回答）



健康維持のために心がけていることについては、若年者では「食事の栄養バランスに気をつけている」、一般高齢者では「定期的に主治医の診察を受けている」がそれぞれ最も多いが、これらの項目は、若年者と一般高齢者ともに共通して多い。このほか、「入浴を心がけている」や「規則正しい生活を心がけている」も若年者と一般高齢者が共通して多い。「生きがいや趣味をもっている」や「地域の行事に参加している」は、一般高齢者が若年者に比べて多く、その差が特に大きい。全体として、一般高齢者が若年者に比べ、健康維持のために心がけている項目が多い。

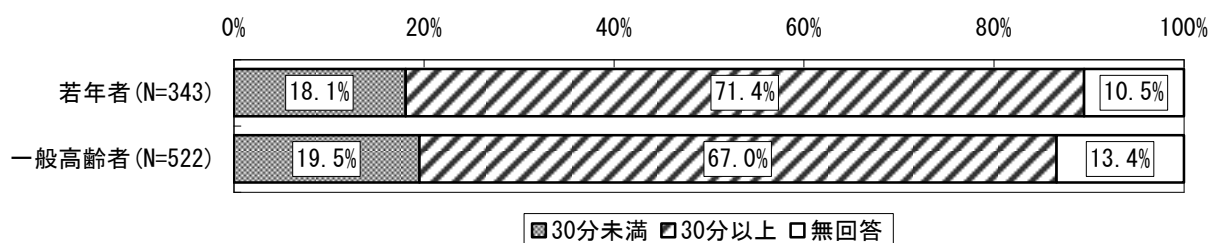
(2) 運動習慣の有無

図表586 1週間の運動回数



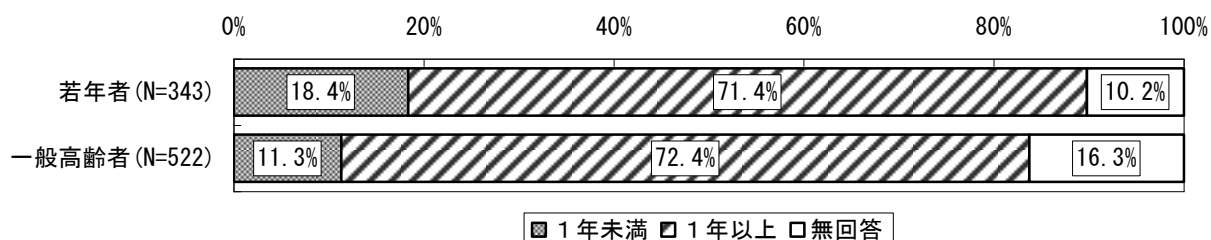
運動の実践状況については、1週間の運動回数は、「2回以上」は若年者が68.8%、一般高齢者が69.3%で大差はないが、「1回」は若年者が26.8%、一般高齢者が15.5%となっている。

図表587 1回の運動時間



1回の運動時間は、「30分未満」は若年者が18.1%、一般高齢者が19.5%で大差はないが、「30分以上」は若年者が71.4%、一般高齢者が67.0%となっている。

図表588 継続期間

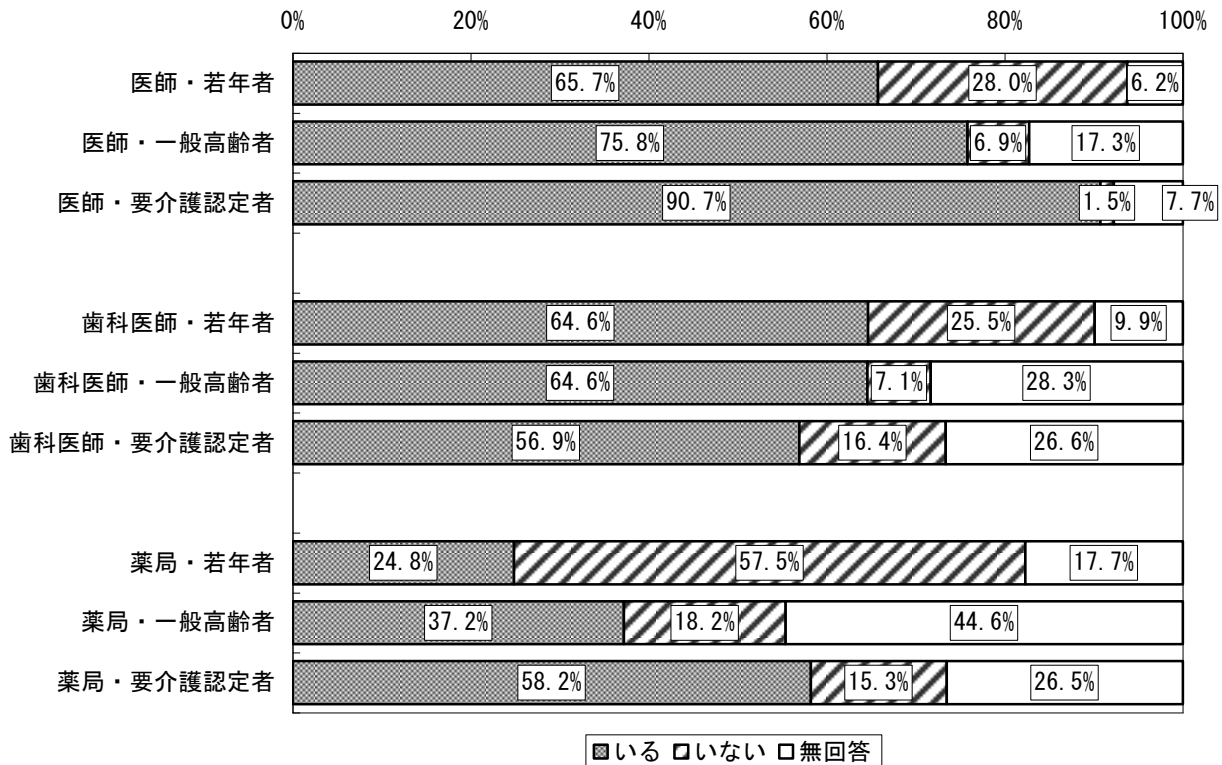


運動の継続期間は、「1年以上」は若年者が71.4%、一般高齢者が72.4%で大差はないが、「1年未満」は若年者が18.4%、一般高齢者が11.3%となっている。

(3) かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の有無

図表589 かかりつけ医等の有無

若年者(N=978) 一般高齢者(N=1,024) 要介護認定者(N=852)



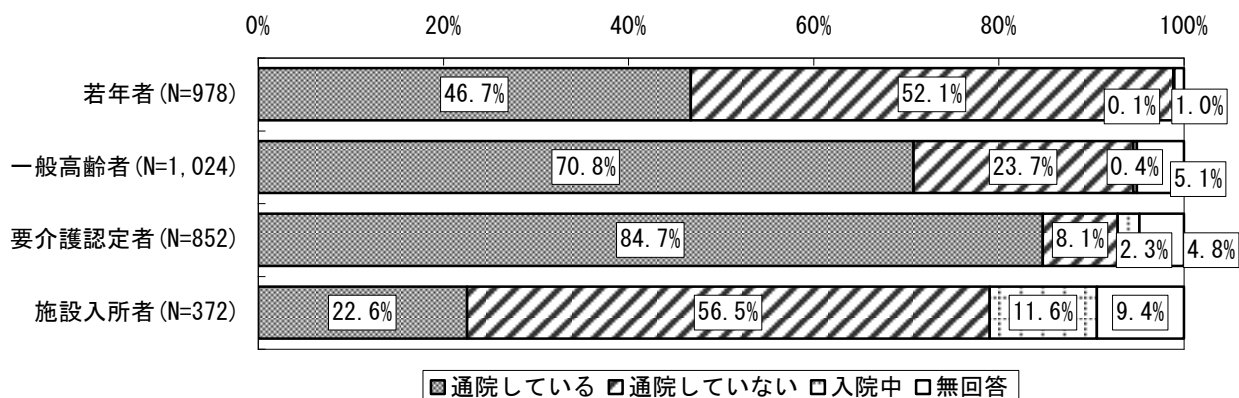
かかりつけ医の有無については、若年者よりも一般高齢者、一般高齢者よりも要介護認定者で「いる」が多い傾向にあり、若年者では「いない」が28.0%となっている。

かかりつけ歯科医の有無については、「いる」は要介護認定者が若年者と一般高齢者に比べて少ないが、「いない」は若年者が25.5%で最も多い。

かかりつけ薬局の有無については、若年者よりも一般高齢者、一般高齢者よりも要介護認定者で「いる」が多い傾向にあり、逆に、要介護認定者よりも一般高齢者、一般高齢者よりも若年者で「いない」が多い傾向にある。

(4) 通院の状況

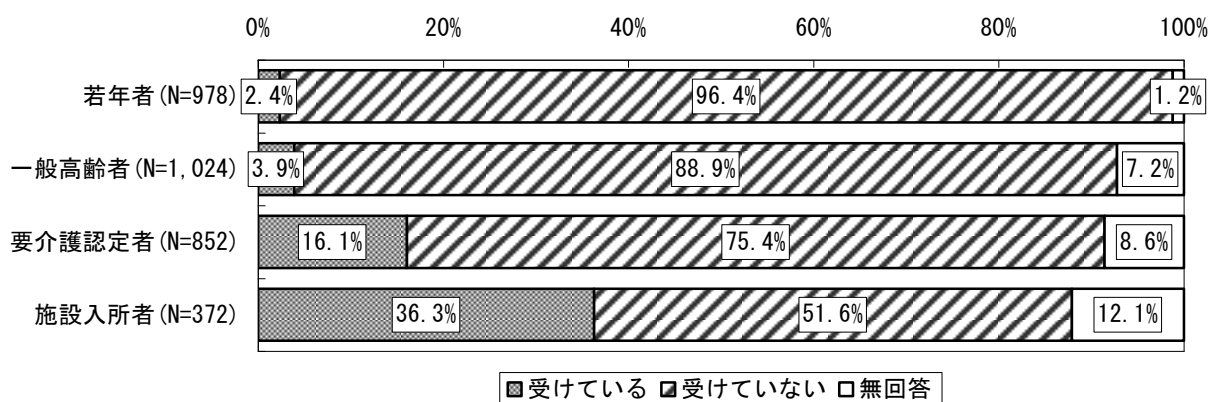
図表590 定期的に通院しているか



現在の定期的な通院の状況については、若年者と施設入所者では「通院していない」、一般高齢者と要介護認定者では「通院している」がそれぞれ最も多い。「入院している」は、施設入所者では11.6%で最も多く、その他は1割未満となっている。

(5) 往診の受診状況

図表591 往診を受けているか

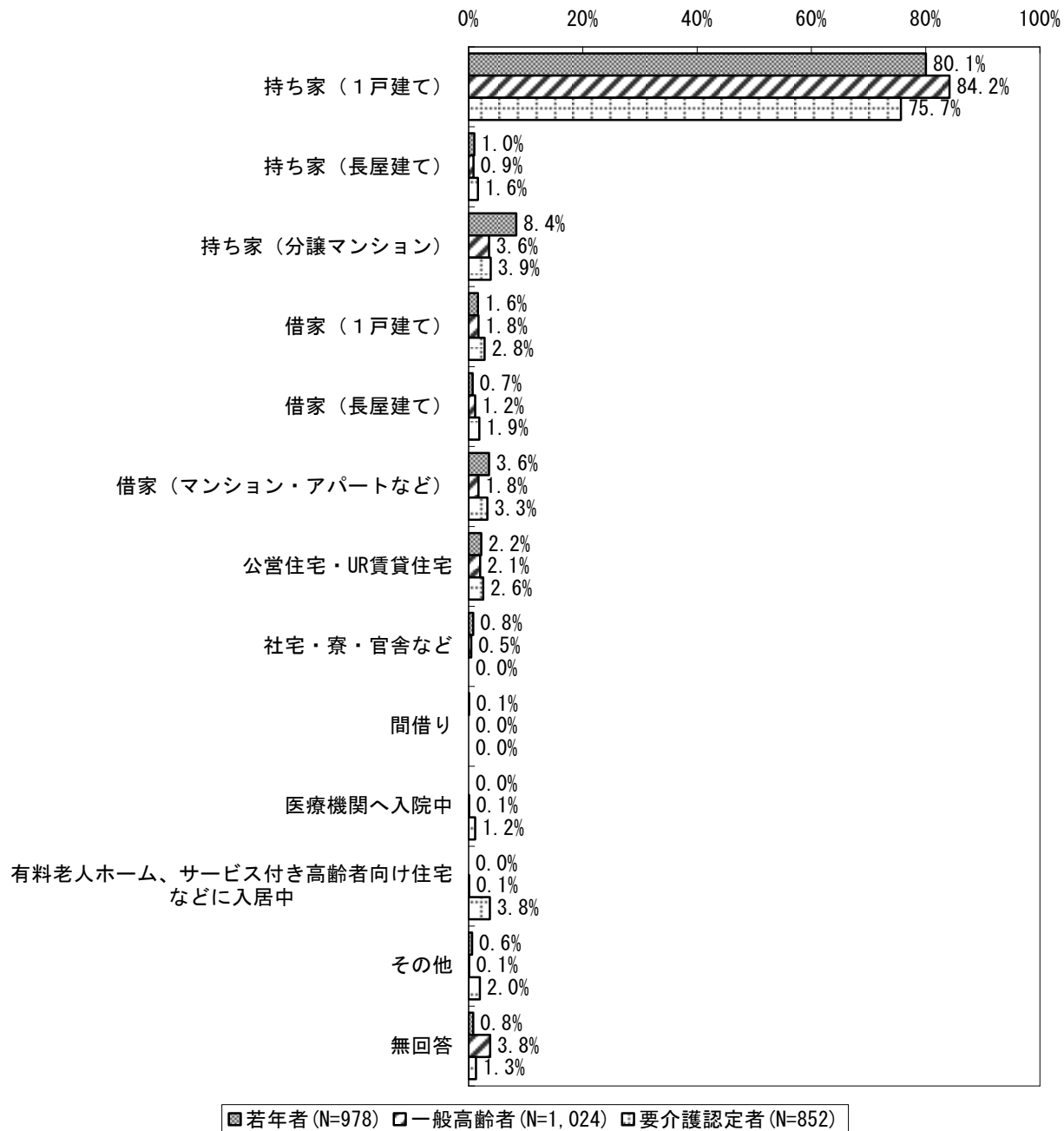


現在の往診の受診状況については、若年者よりも一般高齢者、一般高齢者よりも要介護認定者、要介護認定者よりも施設入所者で「受けている」が多い傾向にあり、加齢に伴う要因とともに、要介護状態の程度や在宅か施設かの生活の場による要因が考えられる。

4 日常生活

(1) 現在の住居形態

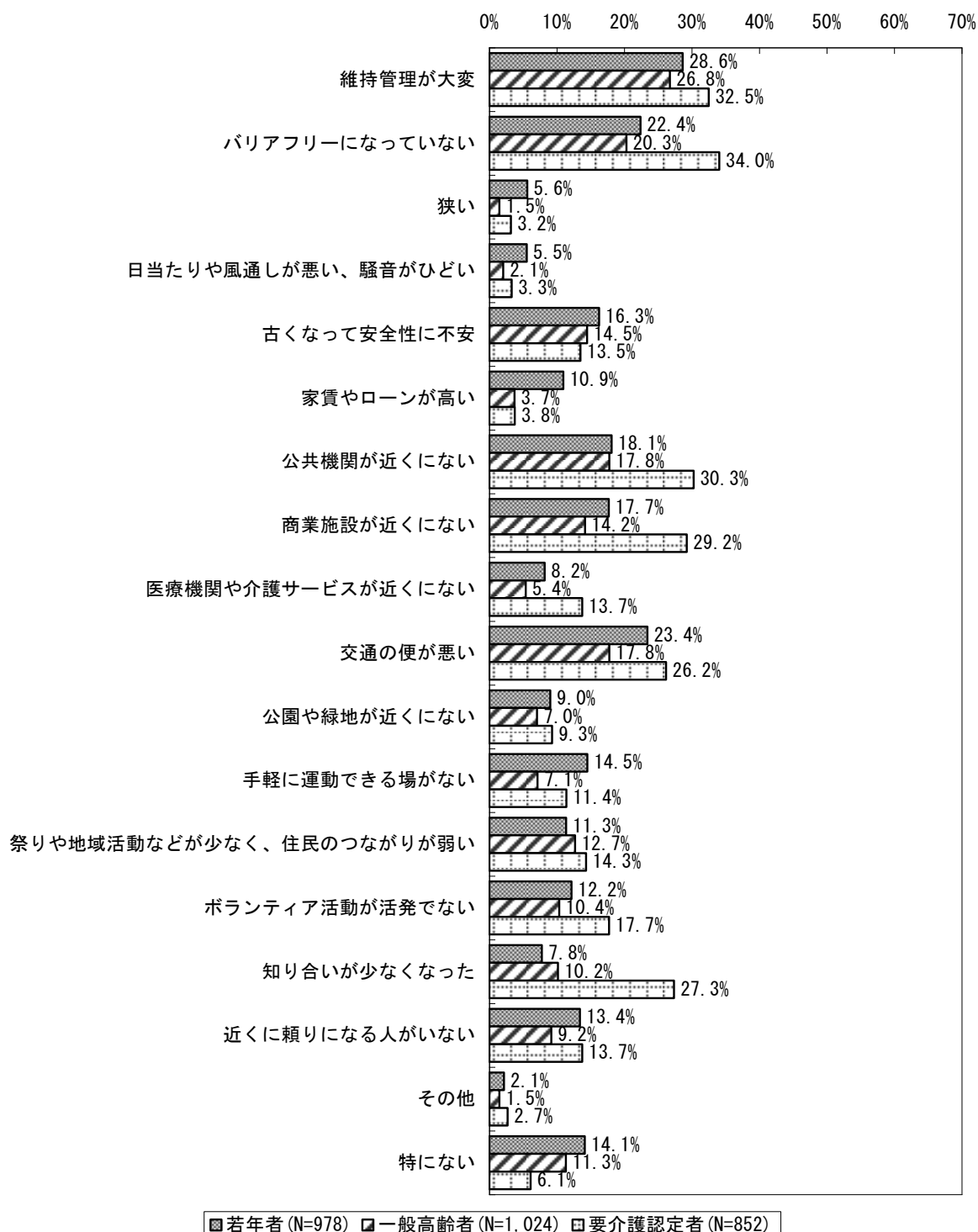
図表592 現在の住居形態



現在の住居形態は、いずれの対象でも「持ち家（1戸建て）」が最も多く、次いで「持ち家（分譲マンション）」となっている

(2) 住まい周辺の環境について困っていること

図表593 住まいや周囲の環境で不便に感じること（複数回答）

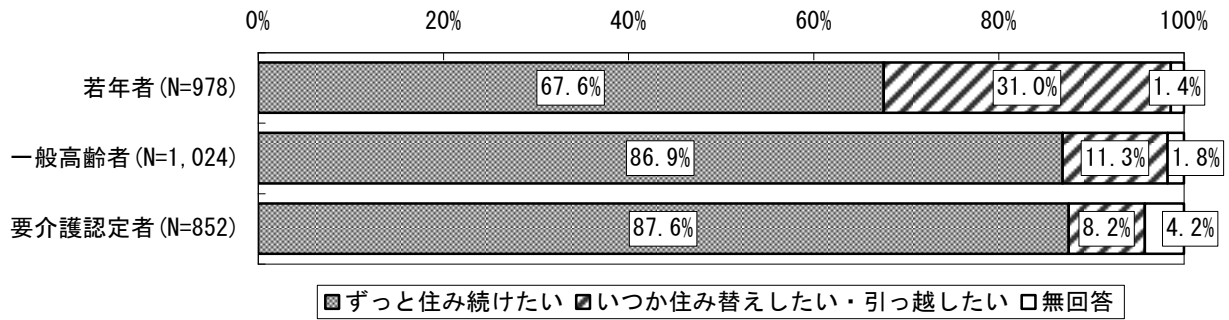


現在の住まいや周囲の環境で不便に感じたり困ったりしていることについては、若年者と一般高齢者では「維持管理が大変」、要介護認定者では「バリアフリーになっていない」がそれぞれ最も多い。若年者では、以下、「交通の便が悪い」、「バリアフリーになっていない」が多くなっている。一般高齢者では、以下、「バリアフリーになっていない」、「公共機関が近くにない」が多くなっている。要介護認定者では、以下、「維持管理が大変」、「公共機関が近くにない」が多くなっている。

要介護認定者では「公共機関が近くにない」、「商業施設が近くにない」、「医療機関や介護サービスが近くにない」、「知り合いが少なくなった」が、若年者と一般高齢者に比べて多くなっている。

(3) 定住意向・住み替え意向

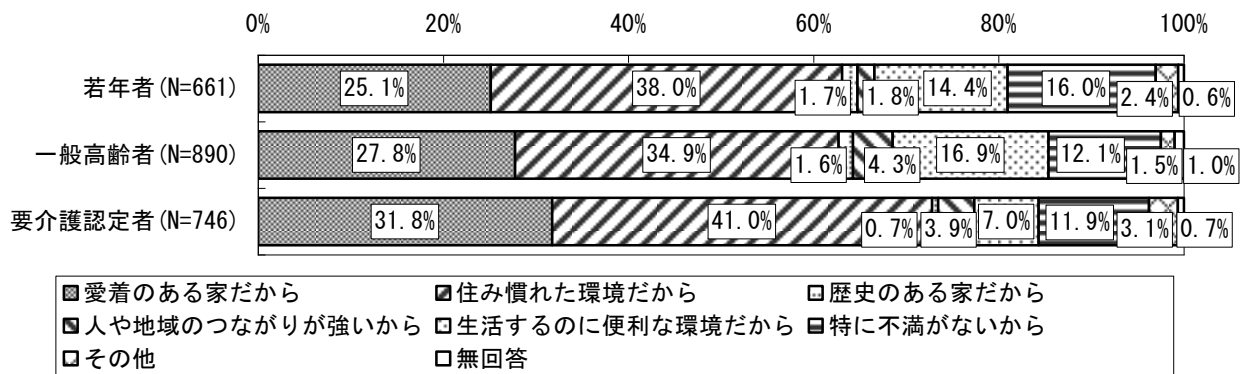
図表594 高齢になっても今の自宅に住み続けたいか



現在の自宅での定住意向については、要介護認定者よりも一般高齢者、一般高齢者よりも若年者で「いつか住み替えしたい・引っ越したい」が多い傾向にある。

(4) 定住を希望する理由

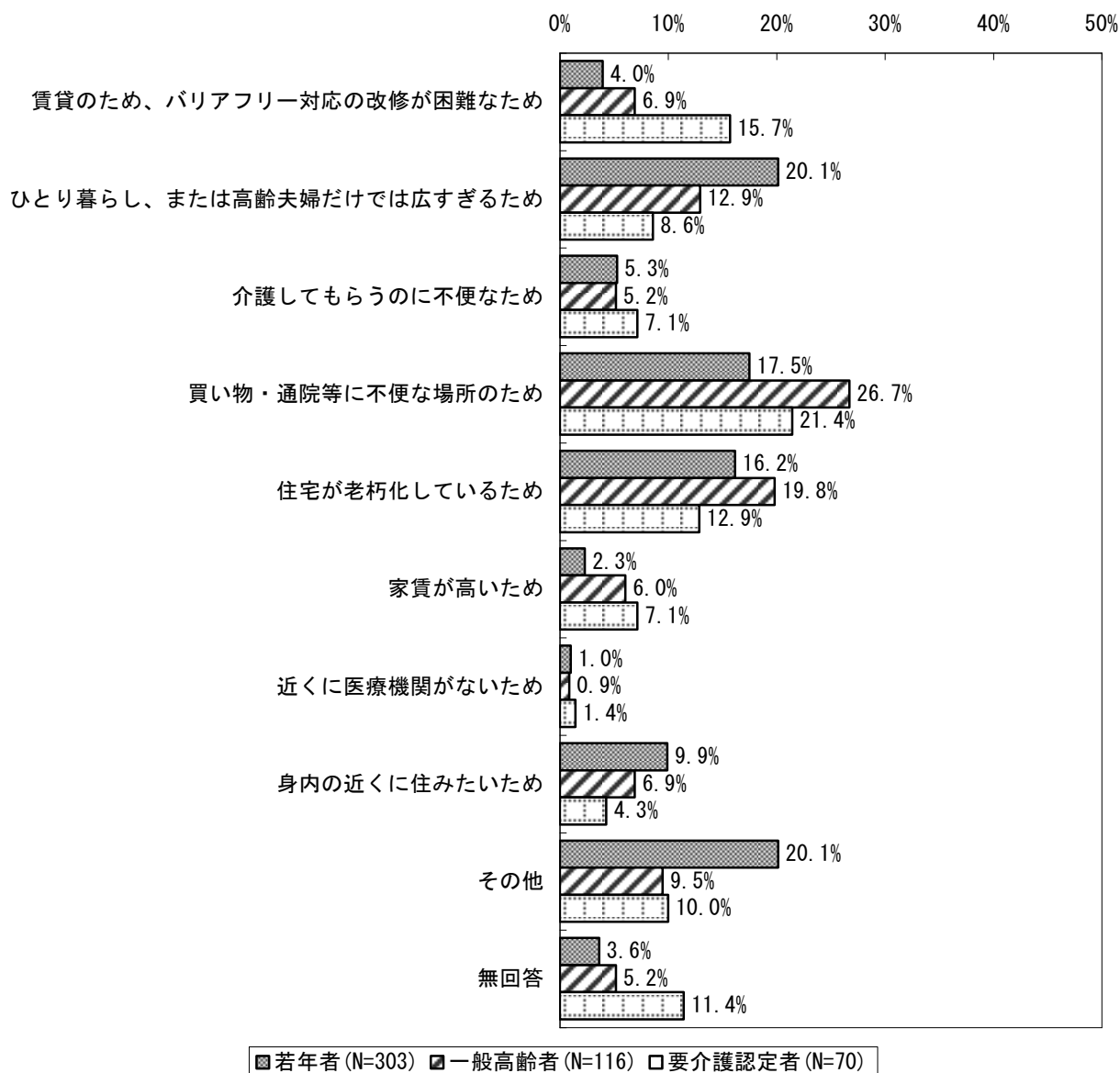
図表595 今の自宅に住み続けたい理由



現在の自宅で定住したい理由については、いずれの対象でも「住み慣れた環境だから」が最も多い。「愛着のある家だから」は、若年者よりも一般高齢者、一般高齢者よりも要介護認定者で多い傾向にある。逆に、「特に不満がないから」は、要介護認定者よりも一般高齢者、一般高齢者よりも若年者で多い傾向にある。

(5) 住み替えを希望する理由

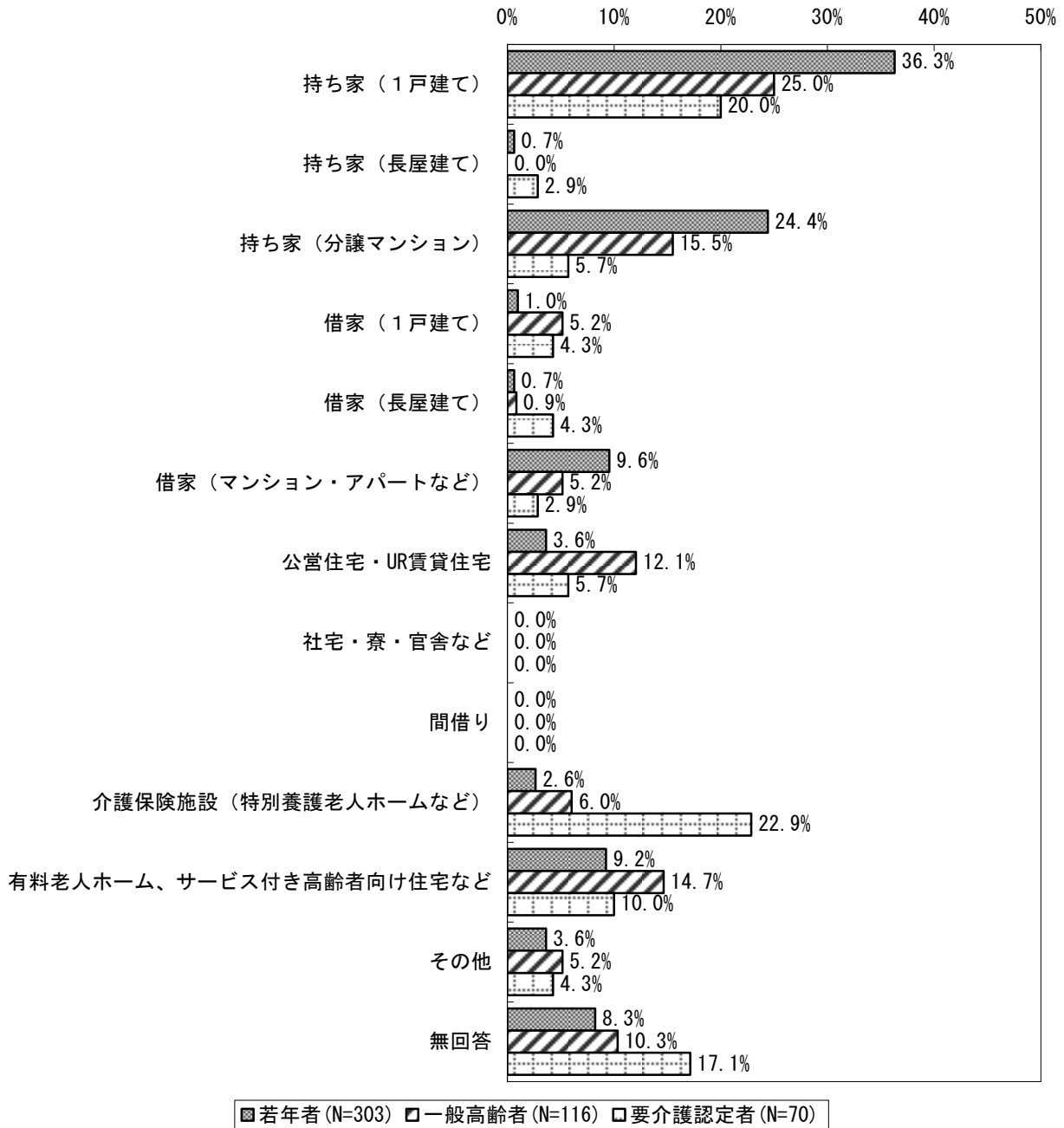
図表596 住み替えを希望する理由



住み替えを希望する理由については、若年者では「ひとり暮らし、または高齢夫婦だけでは広すぎるため」、一般高齢者と要介護認定者では「買い物・通院等に不便な場所のため」がそれぞれ最も多い。「賃貸のため、バリアフリー対応の改修が困難なため」は、若年者よりも一般高齢者、一般高齢者よりも要介護認定者で多い傾向にある。

(6) 住み替えを希望する住居の形態

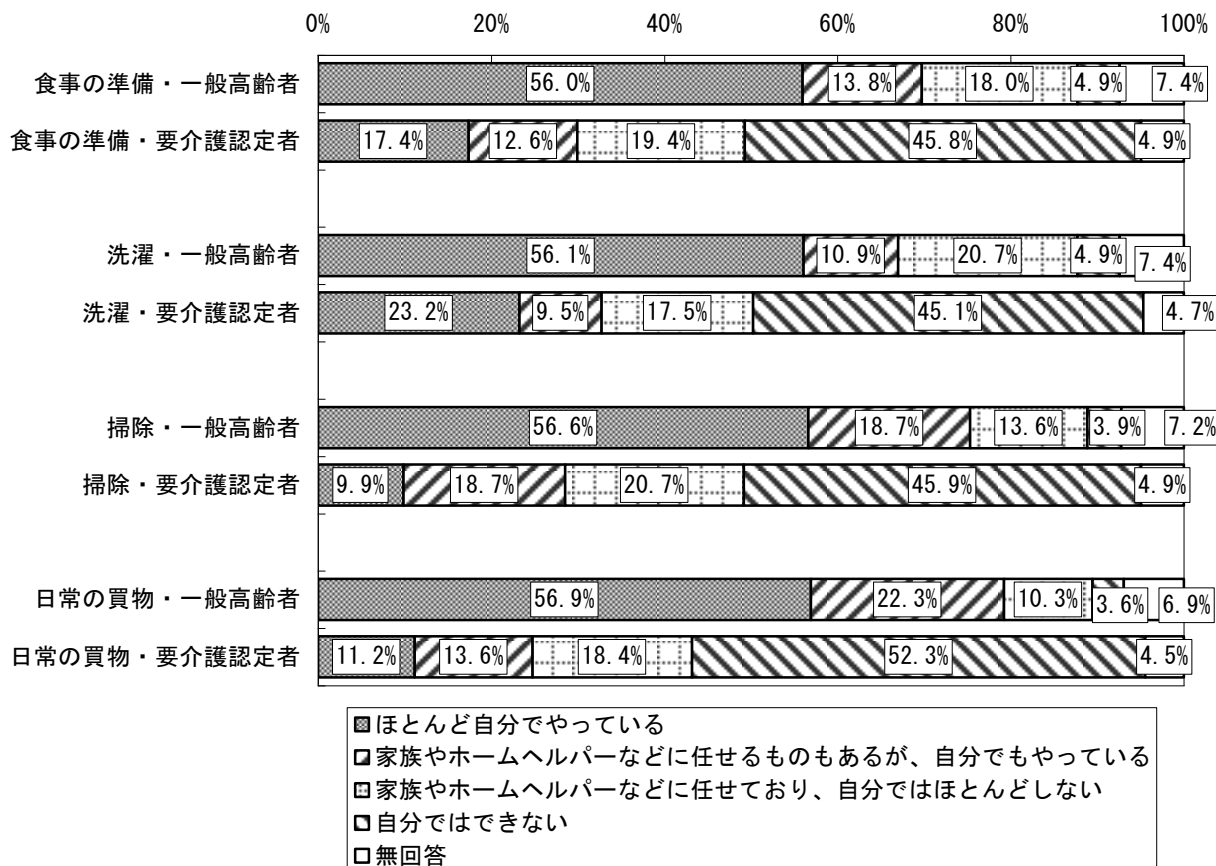
図表597 住み替えを希望する住居形態



住み替えを希望する住居の形態については、若年者と一般高齢者では「持ち家 (1戸建て)」が最も多く、次いで「持ち家 (分譲マンション)」となっている。要介護認定者では「介護保険施設 (特別養護老人ホームなど)」が最も多く、次いで「持ち家 (1戸建て)」となっている。

(7) 家事を自分でしているか

図表598 家事を自分でできるか
一般高齢者(N=1,024) 要介護認定者(N=852)

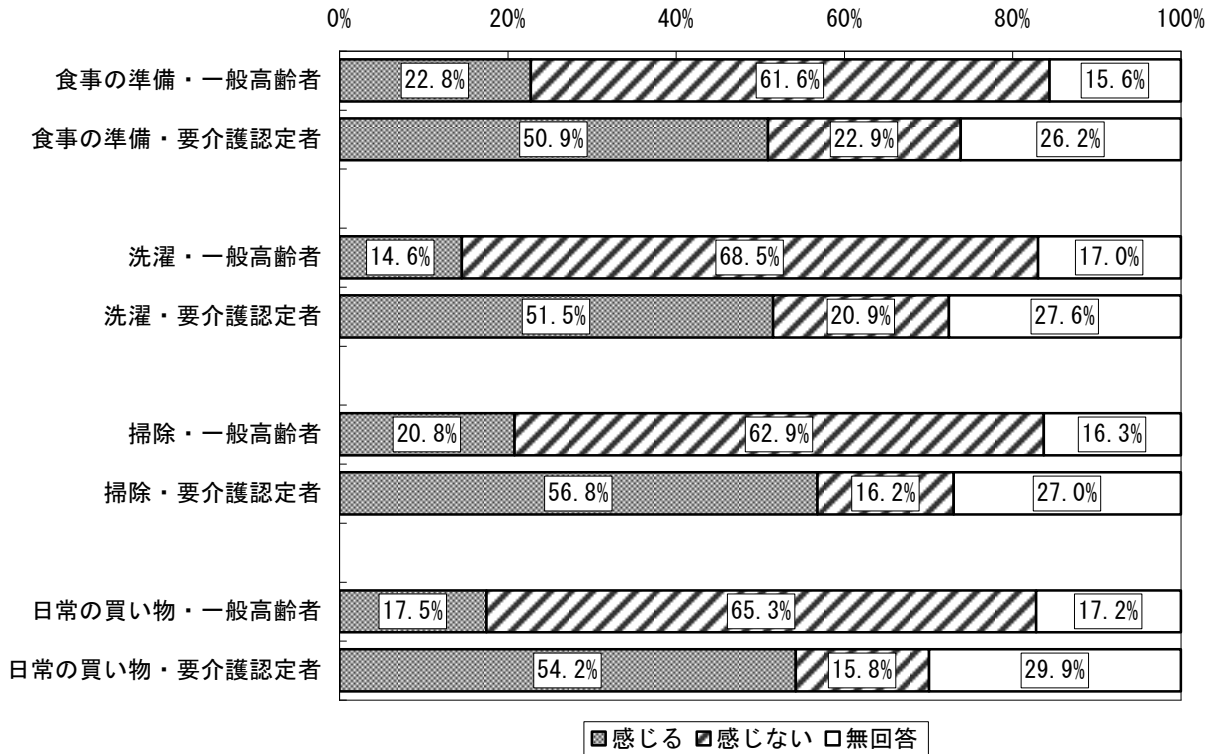


家事の状況について、「食事の準備」・「洗濯」・「掃除」・「日常の買物」すべてについて、一般高齢者の過半数は「ほとんど自分でやっている」と回答し、要介護認定者の4～5割は「自分ではできない」と回答している。

(8) 家事に負担を感じるか

図表599 家事の負担感

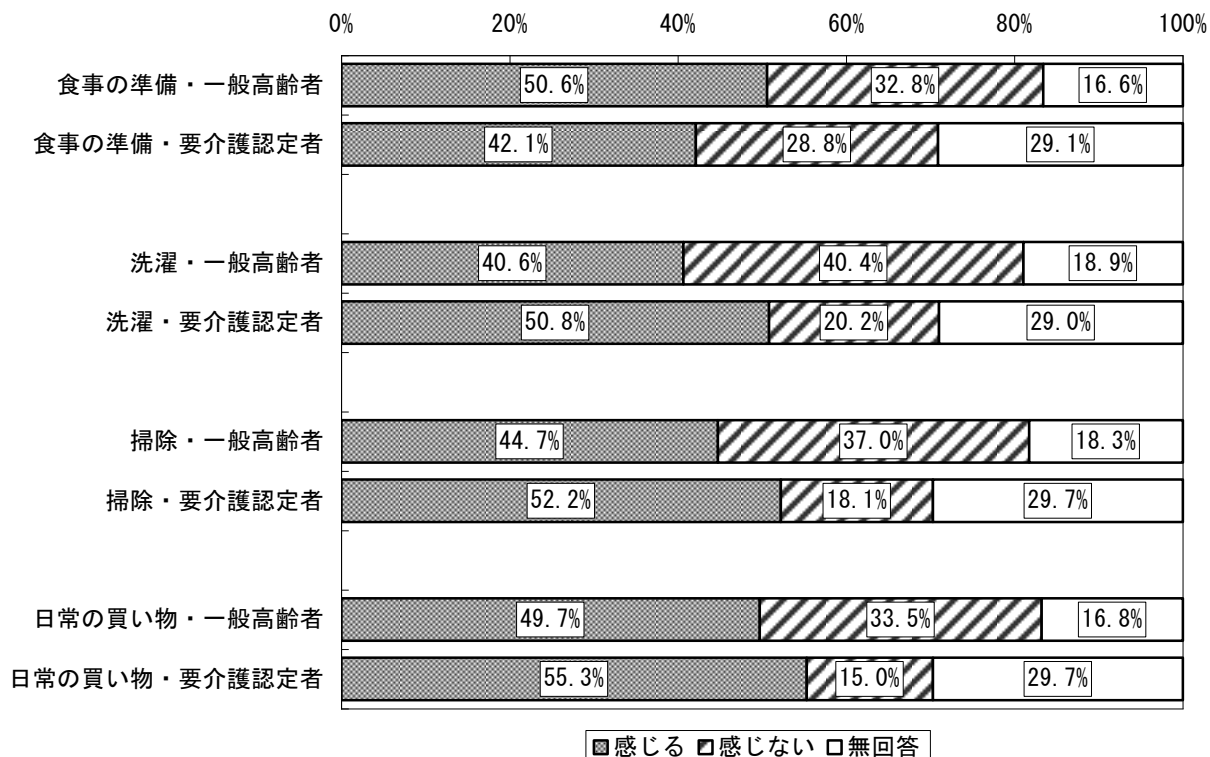
一般高齢者 (N=1,024) 要介護認定者 (N=852)



家事の負担感については、「食事の準備」・「洗濯」・「掃除」・「日常の買い物」すべてについて、一般高齢者の6割以上が負担を感じていないが、要介護認定者の過半数は負担を感じている。

図表600 将来の不安

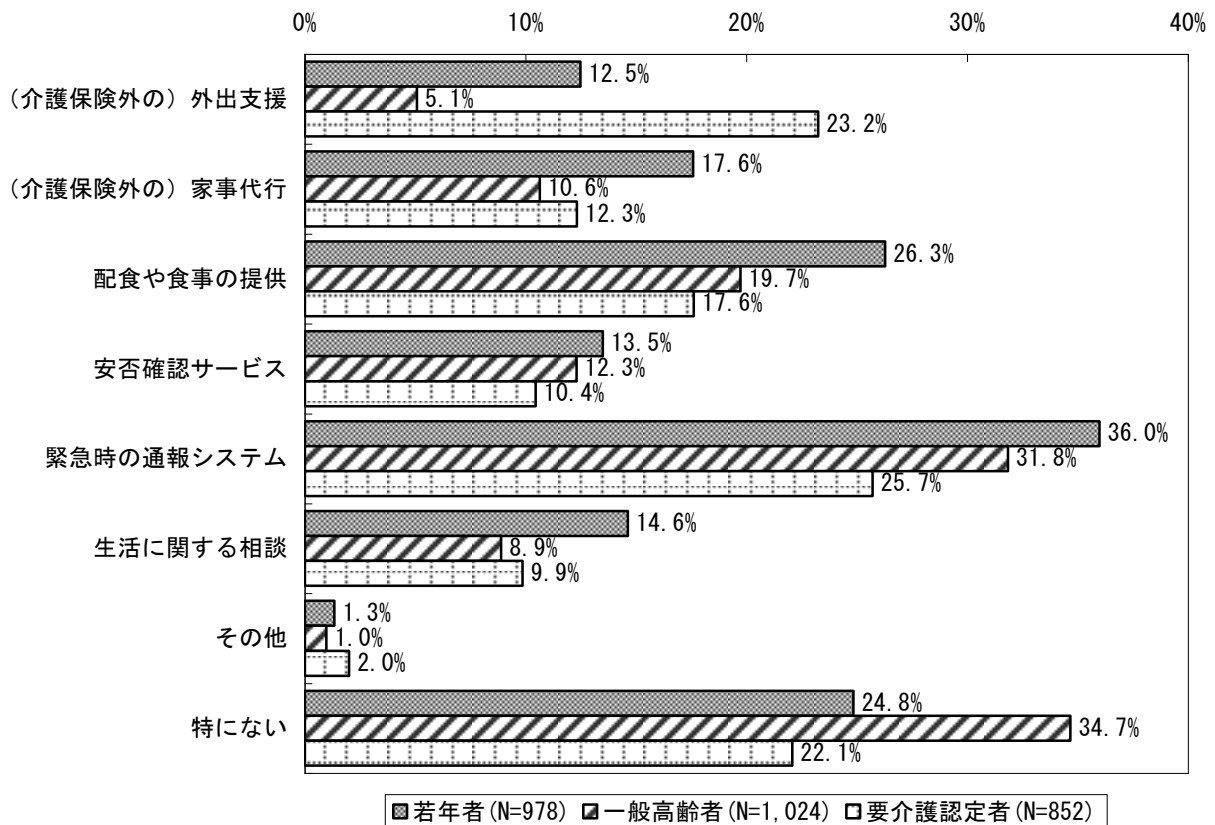
一般高齢者 (N=1,024) 要介護認定者 (N=852)



家事に対する将来の不安については、「食事の準備」・「洗濯」・「掃除」・「日常の買い物」すべてについて、一般高齢者・要介護認定者ともに4割以上が不安を感じているが、「食事の準備」は、一般高齢者の不安感が要介護認定者に比べて強い。

(9) 身近で提供されることを望むサービスの種類

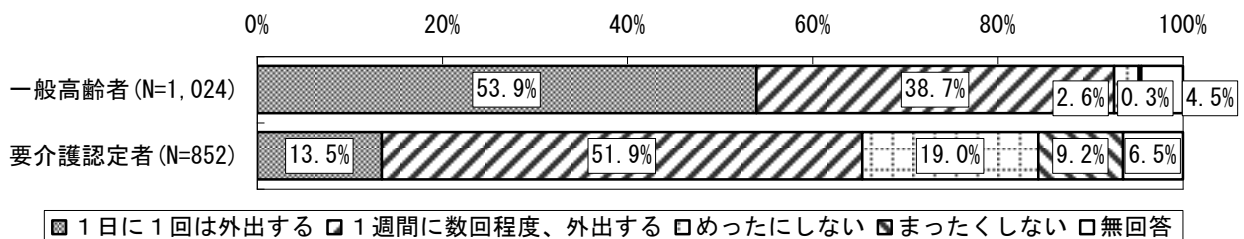
図表601 医療や介護以外に身近でほしいサービス（複数回答）



身近なところで提供されることを望むサービスについては、いずれの対象でも「緊急時の通報システム」が最も多いが、要介護認定者よりも一般高齢者、一般高齢者よりも若年者で多い傾向にある。「配食や食事の提供」や「安否確認サービス」も同様の傾向にあり、要介護認定を受けていない人たちでのニーズがより高いことが伺える。

(10) 外出の頻度

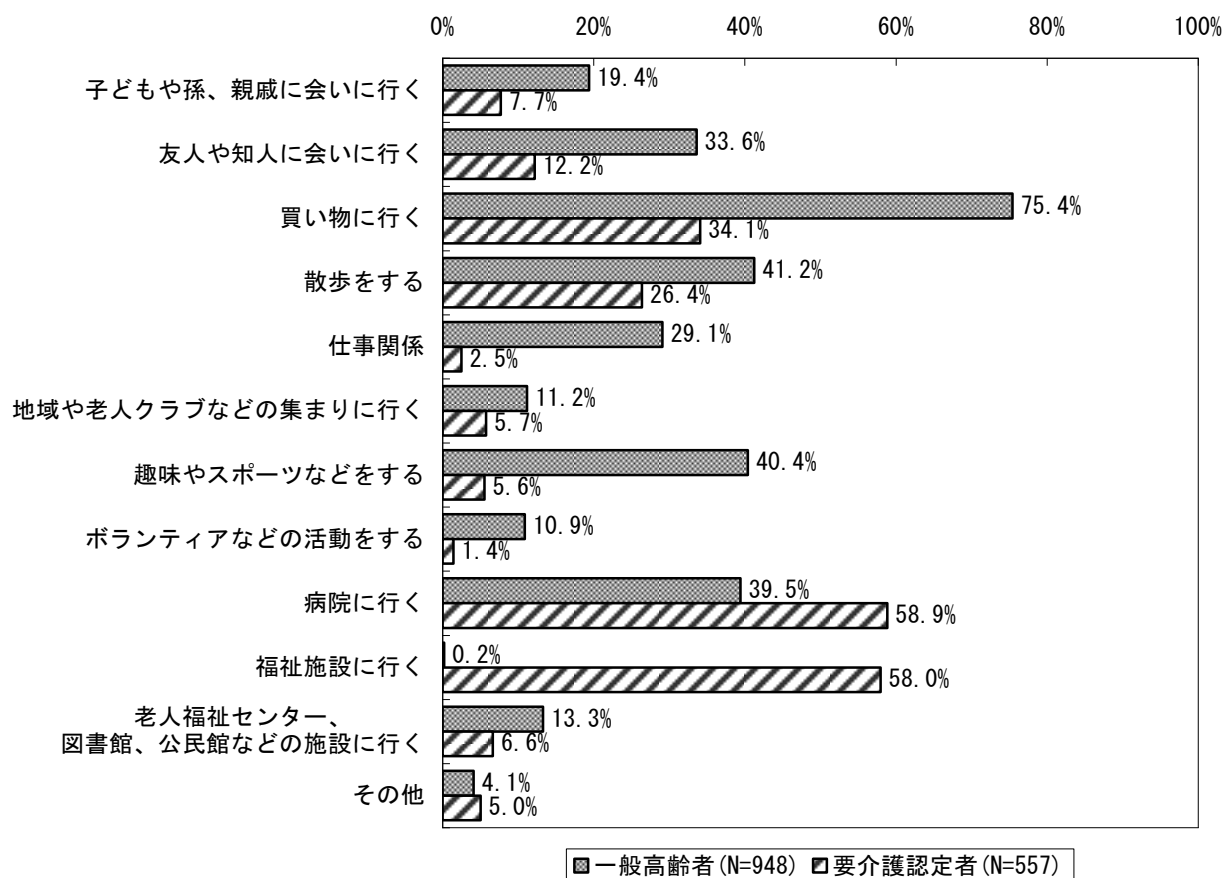
図表602 外出頻度



外出の頻度については、一般高齢者では「1日に1回は外出する」が53.9%で最も多く、要介護認定者では「1週間に数回程度、外出する」が51.9%で最も多い。要介護認定者では「めったにしない」が19.0%みられ、「まったくしない」までを含めると、極端に外出頻度が少ない人が3割近くいる。

(11) 外出の目的

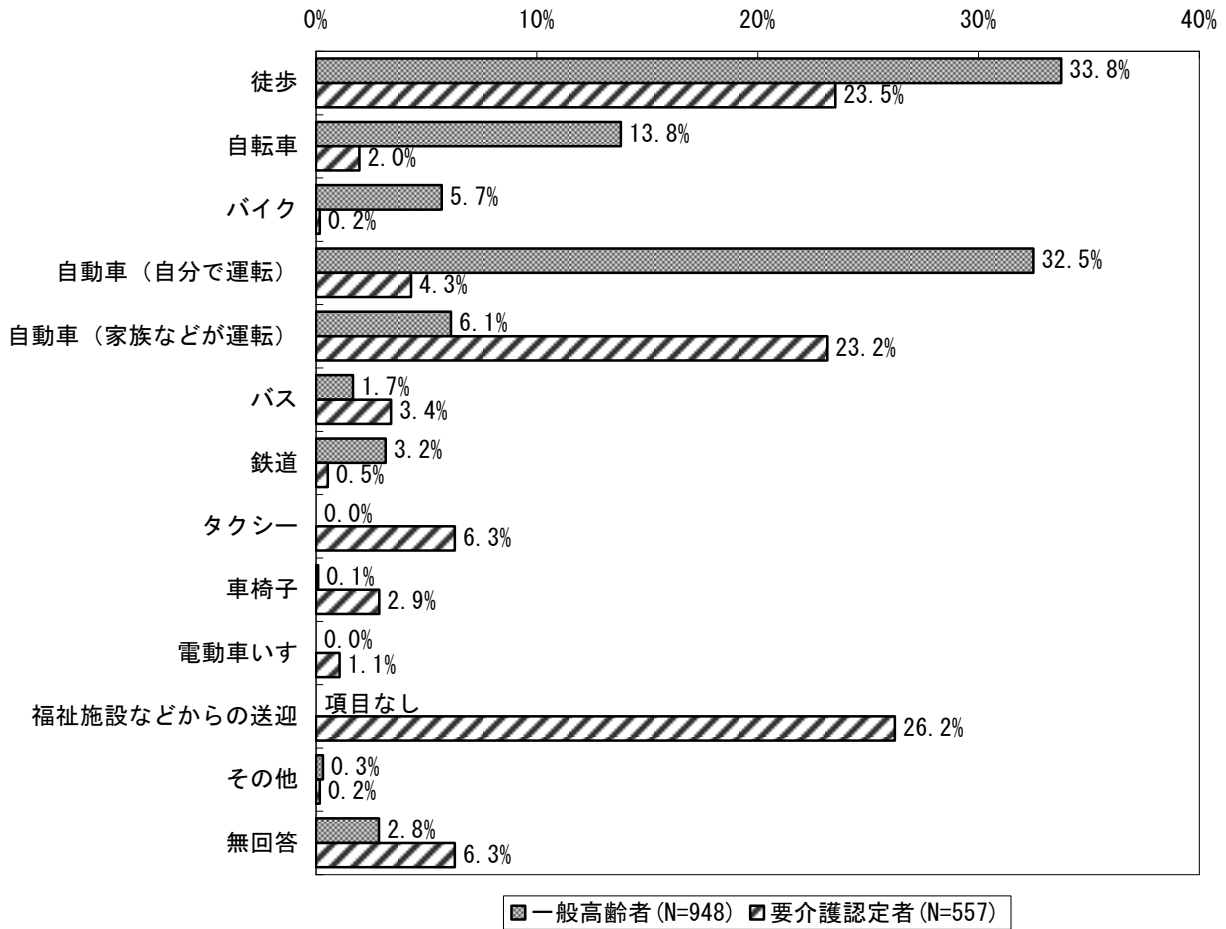
図表603 外出の目的（複数回答）



外出の目的については、一般高齢者では「買い物に行く」が最も多く、以下、「散歩をする」、「趣味やスポーツなどをする」、「病院に行く」などとなっている。要介護認定者では「病院に行く」が最も多く、ほぼ同率で「福祉施設に行く」が続き、以下、「買い物に行く」、「散歩をする」となっているが、「買い物に行く」や「散歩をする」は、一般高齢者に比べて少ない。

(12) 外出の手段

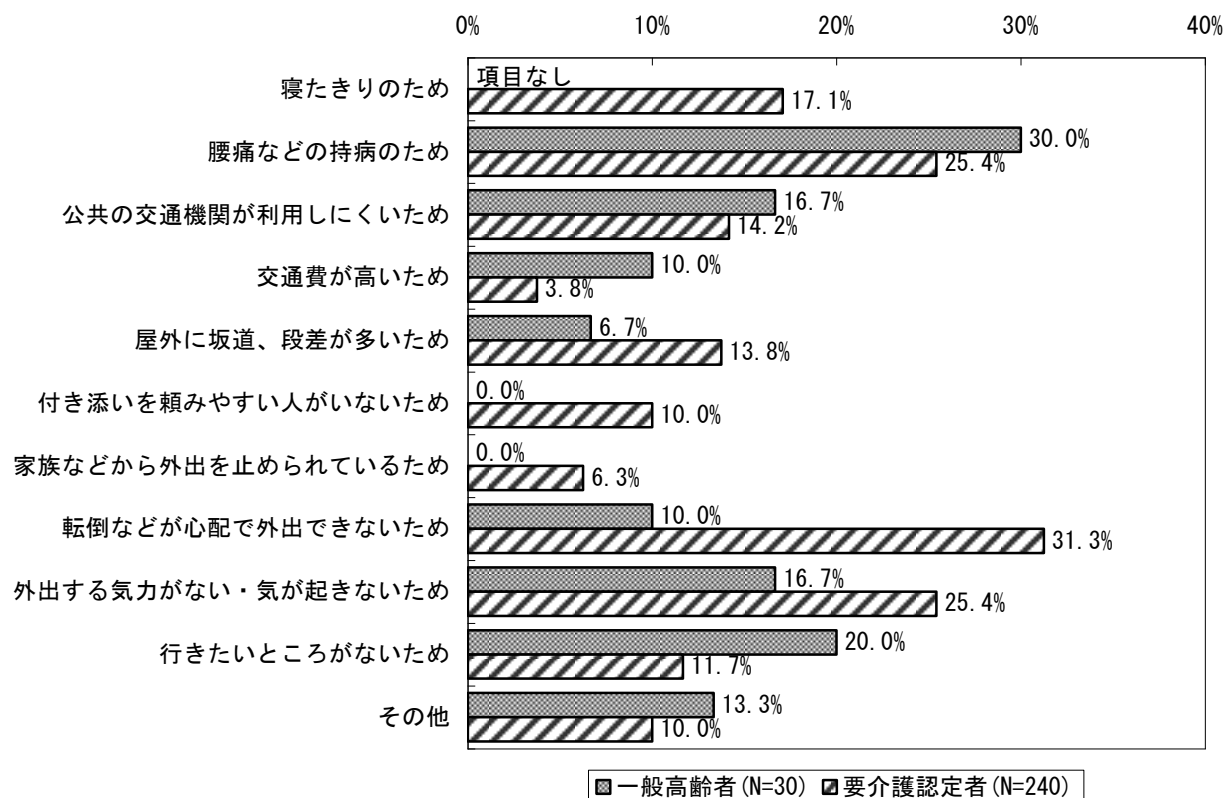
図表604 主な外出手段



外出の手段については、一般高齢者では「徒歩」が最も多く、以下、「自動車（自分で運転）」、「自転車」などとなっている。要介護認定者では「福祉施設などからの送迎」が最も多く、以下、「自動車（家族などが運転）」、「徒歩」などとなっており、要介護認定者では自力での移動手段がより少ない。

(13) 外出しない理由

図表605 外出しない理由（複数回答）

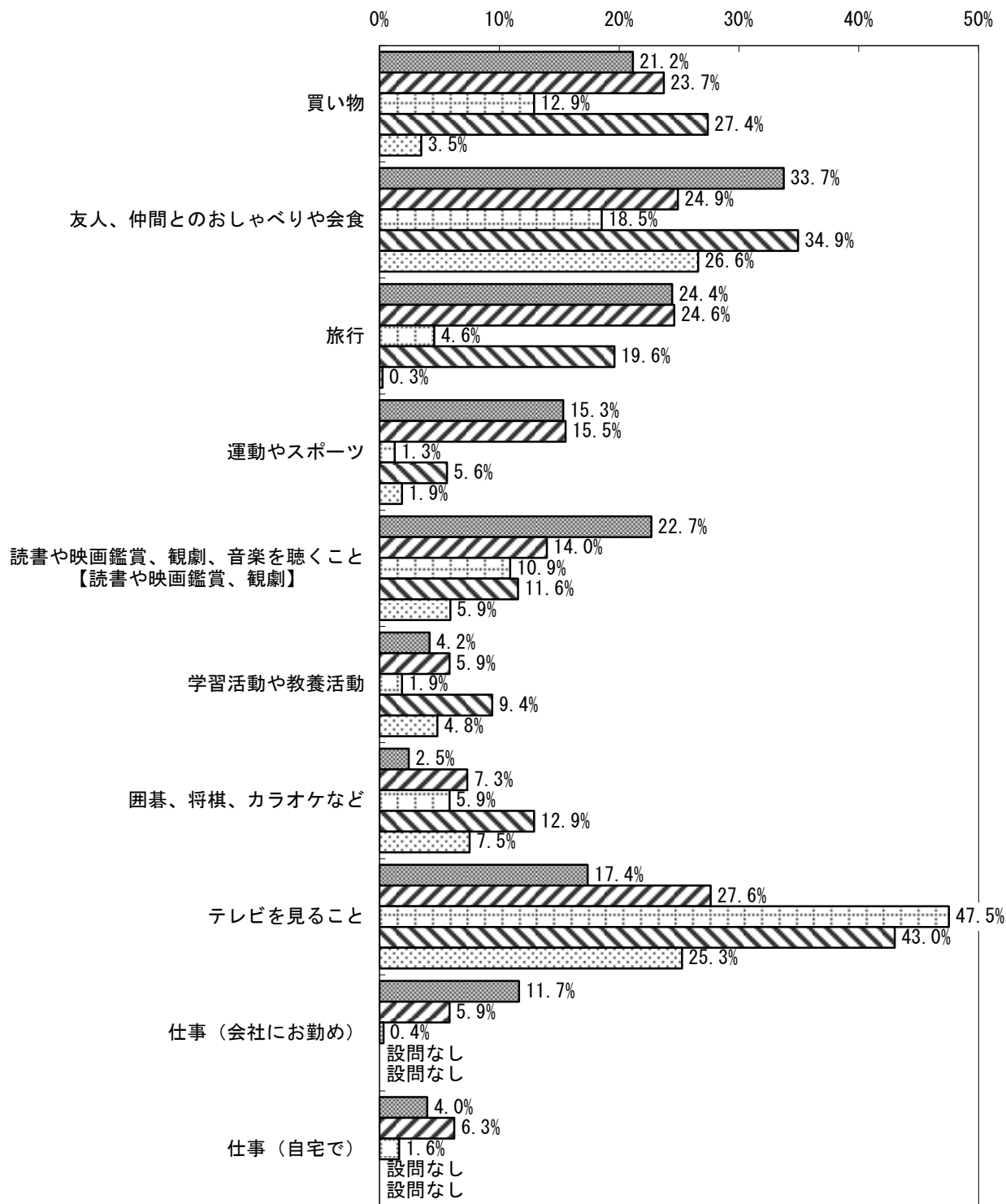


外出しない理由については、一般高齢者では「腰痛などの持病のため」が最も多い。要介護認定者では「転倒などが心配で外出できないため」が最も多く、以下、「腰痛などの持病のため」と「外出する気力がない・気が起きないため」（同率）、「寝たきりのため」などとなっている。

5 日常の楽しみや生きがい

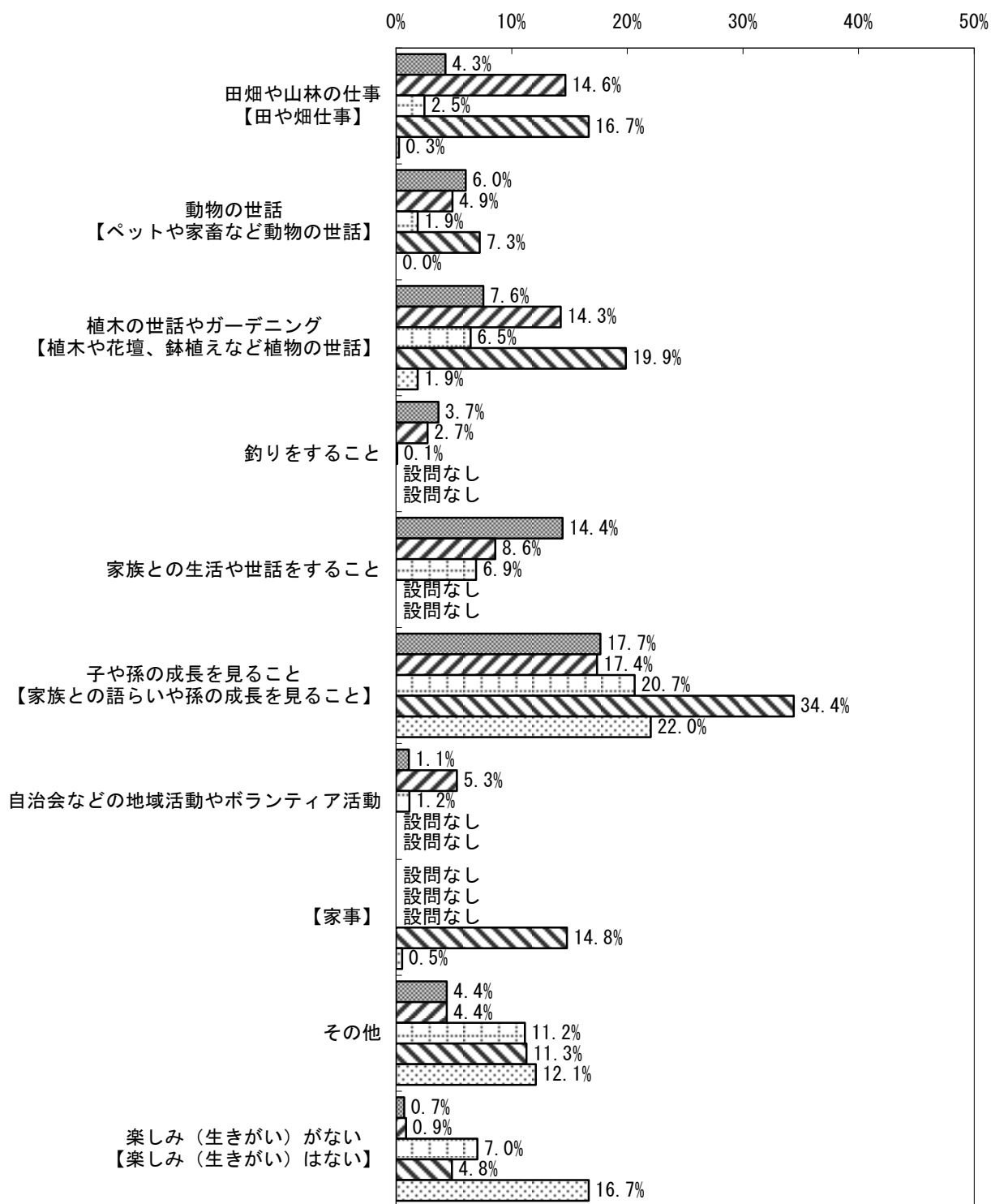
(1) 日常の楽しみ・生きがい

図表606 日常の楽しみ・生きがい（複数回答）



若年者 (N=978)
 一般高齢者 (N=1,024)
 要介護認定者 (N=852)
 施設入所者 (入所前) (N=372)
 施設入所者 (入所後) (N=372)

図表606 日常の楽しみ・生きがい（複数回答）



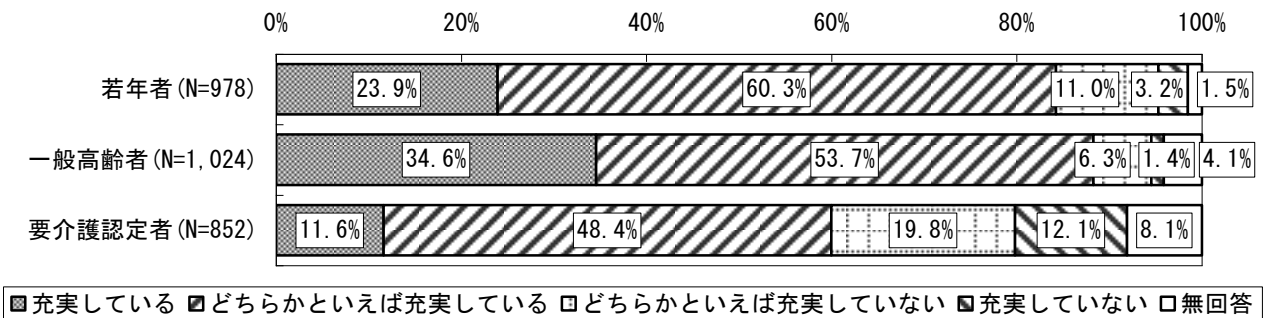
若年者 (N=978)
 一般高齢者 (N=1,024)
 要介護認定者 (N=852)
 施設入所者（入所前）(N=372)
 施設入所者（入所後）(N=372)

※ 【】内は施設入所者のみの設問。

日常の楽しみ・生きがいについては、若年者と入所後の施設入所者では「友人、仲間とおしゃべりや会食」、一般高齢者・要介護認定者・入所前の施設入所者では「テレビを見ること」がそれぞれ最も多い。施設入所者では、「楽しみ（生きがい）がない」が施設入所前に比べて入所後に10ポイント以上増加しており、他の対象に比べても多い。

(2) 生活の充実度・充実感

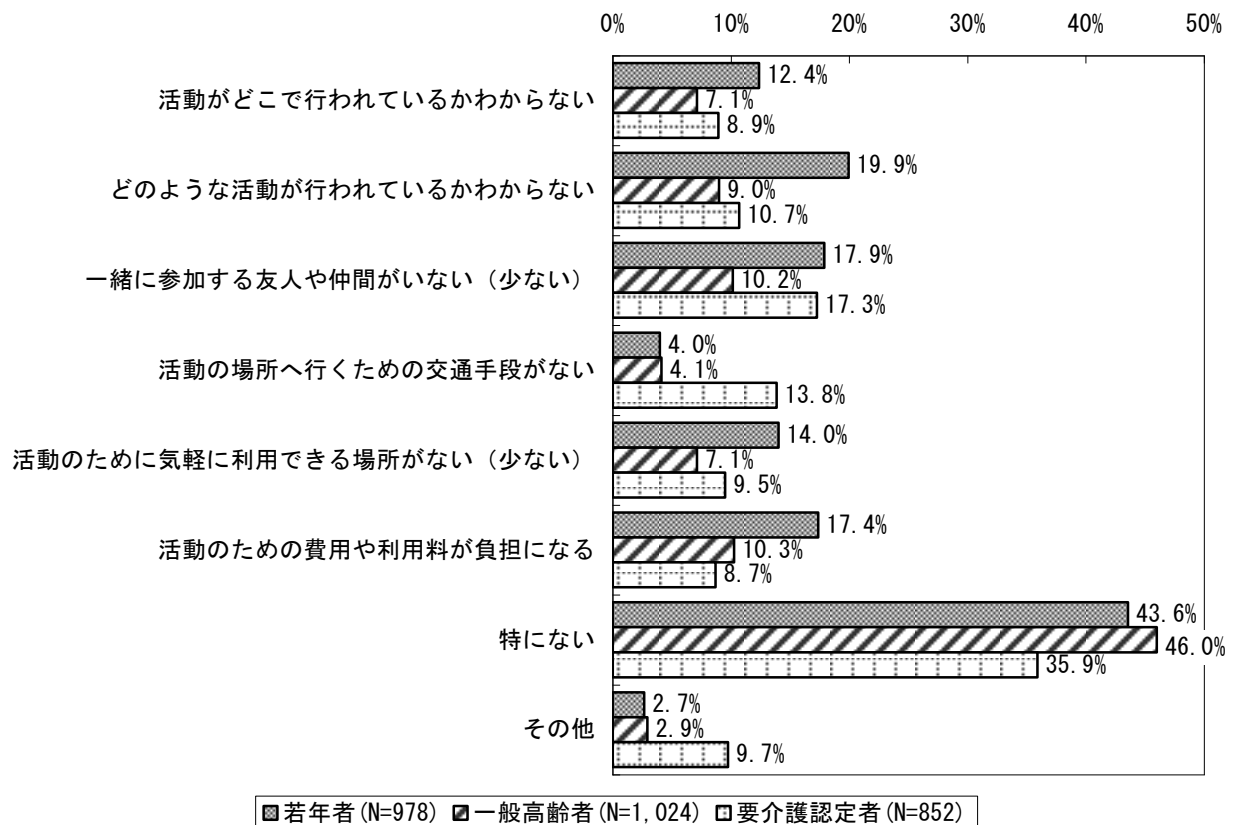
図表607 生活の充実度



生活の充実度については、若年者・一般高齢者・要介護認定者の中で充実感のある人は要介護認定者が最も少ない。

(3) 生きがいのための活動や健康づくりの取組をする上で困っていること

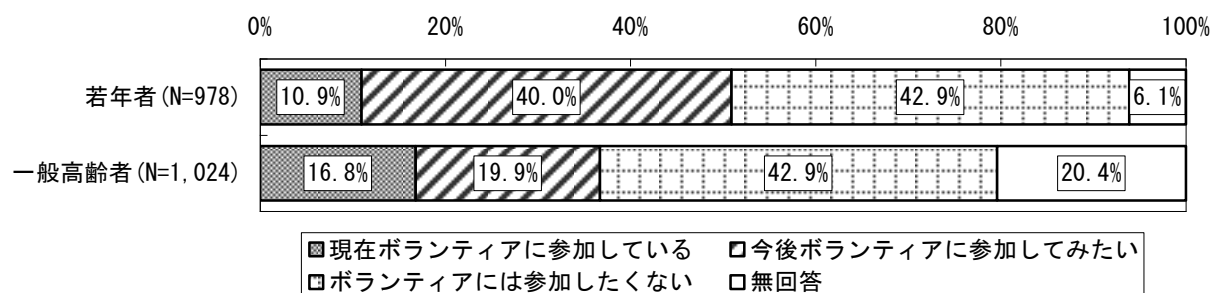
図表608 生きがい活動等に取り組むうえで困っていること（複数回答）



生きがいのための活動や健康づくりの取組をする上で困っていることや気になっていることについては、いずれの対象でも「特になし」が最も多いが、これ以外では、若年者では「どのような活動が行われているかわからない」、一般高齢者では「活動のための費用や利用料が負担になる」、要介護認定者では「一緒に参加する友人や仲間が少ない（少ない）」がそれぞれ最も多い。「活動の場所へ行くための交通手段がない」は、要介護認定者では13.8%あり、若年者や一般高齢者が約4%であるのに比べて多い。

(4) ボランティア活動の参加状況

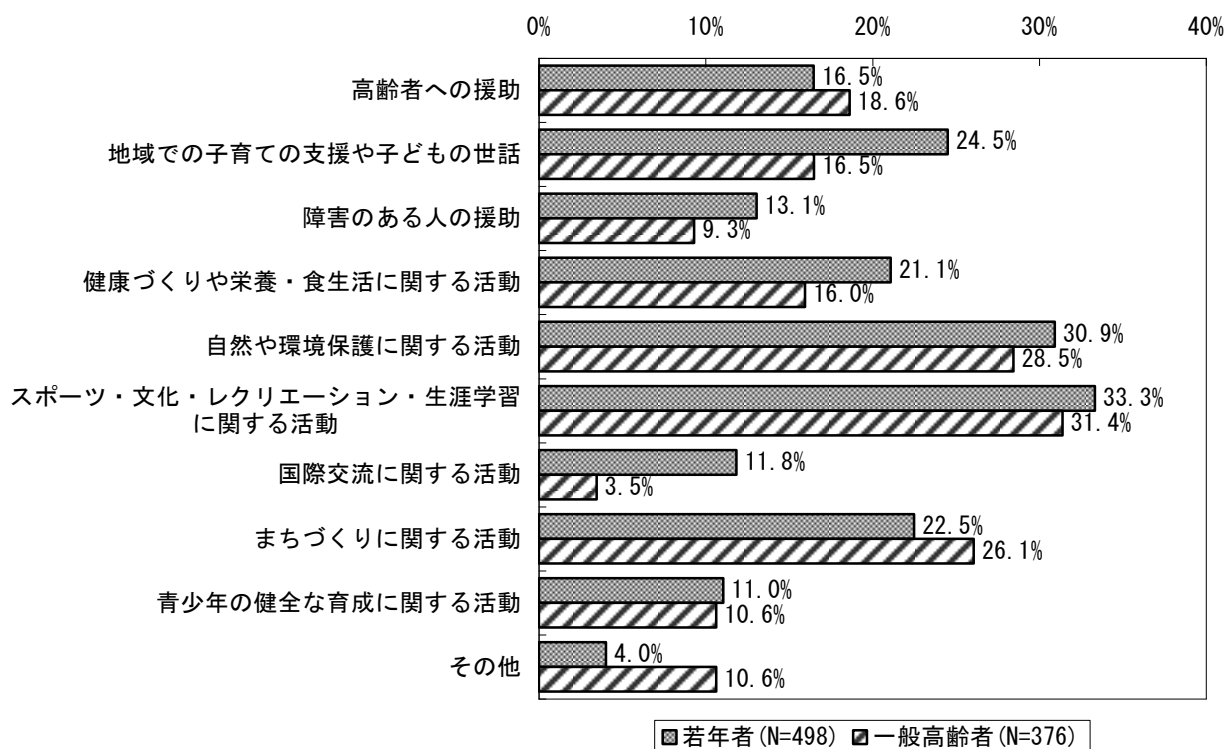
図表609 ボランティア活動の参加状況



ボランティア活動の参加状況については、若年者の10.9%、一般高齢者の16.8%が「現在参加している」と回答し、「今後ボランティアに参加してみたい」は若年者で40.0%と多い。「ボランティアには参加したくない」は、若年者・一般高齢者ともに42.9%である。

(5) ボランティア活動参加者が参加している活動の内容・種類

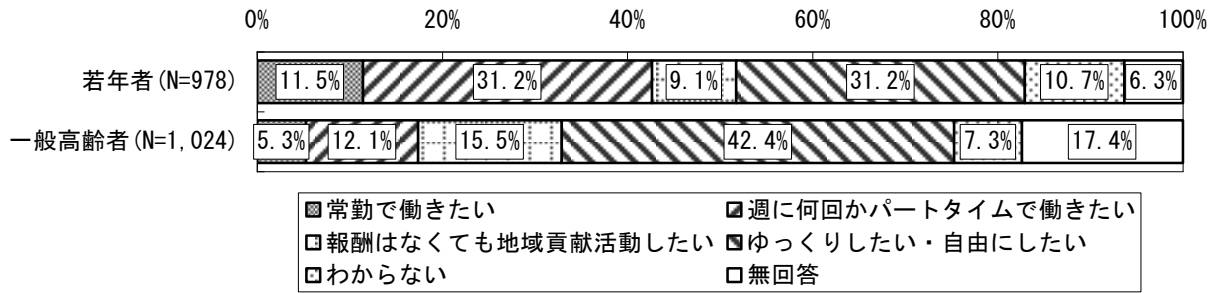
図表610 参加しているボランティア活動の種類（複数回答）



ボランティア活動参加者が参加している活動内容・今後参加したい人が参加してみたい活動内容については、若年者・一般高齢者ともに「スポーツ・文化・レクリエーション・生涯学習に関する活動」が最も多く、次いで「自然や環境保護に関する活動」となっている。「地域での子育ての支援や子どもの世話」や「健康づくりや栄養・食生活に関する活動」は若年者が一般高齢者に比べて多く、「まちづくりに関する活動」は一般高齢者が若年者に比べて多い。

(6) 65歳以降の就労意向

図表611 65歳以上で働くこと等に対する意識

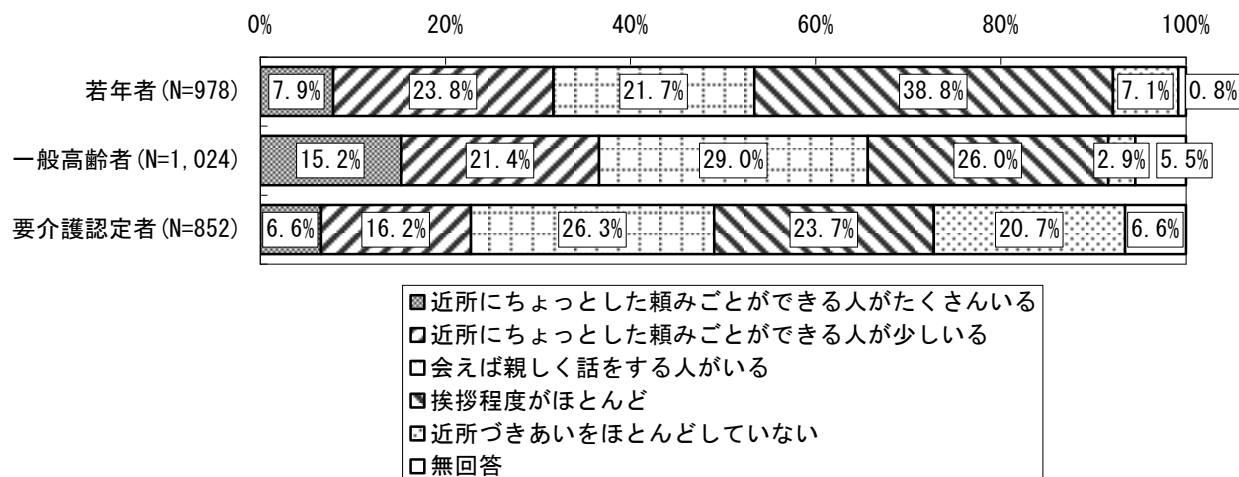


65歳以降に働くことやボランティア活動等に参加することへの考え方については、若年者では「週に何回かパートタイムで働きたい」と「ゆっくりしたい・自由にしたい」が同率で最も多く、一般高齢者では「ゆっくりしたい・自由にしたい」が最も多い。「常勤で働きたい」は若年者が一般高齢者に比べて多く、「報酬はなくても地域貢献活動したい」は一般高齢者が若年者に比べて多い。

6 地域とのかかわり

(1) 近所づきあいの程度

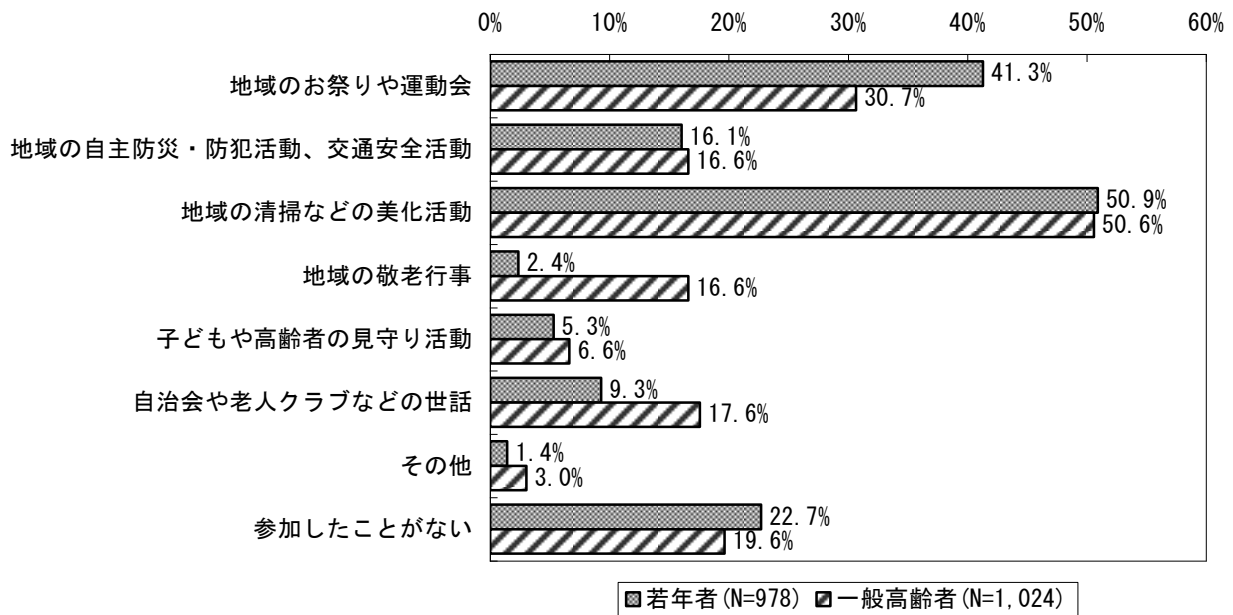
図表612 近所づきあいの程度



近所づきあいの程度については、程度に関係なく、頼みごとができる人がいる人は一般高齢者が36.6%で最も多く、以下、若年者の31.7%、要介護認定者の22.8%と続いている。「近所づきあいをほとんどしていない」は要介護認定者が20.7%で、若年者と一般高齢者が1割未満であるのに比べて多い。

(2) 参加している地域行事や活動の種類

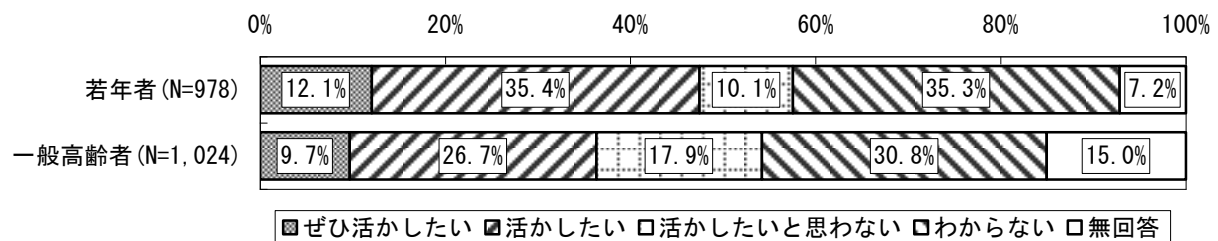
図表613 近年参加したことがある地域行事等の種類（複数回答）



地域の行事や活動等で参加したことがあるものについては、若年者・一般高齢者ともに「地域の清掃などの美化活動」が最も多く、次いで「地域のお祭りや運動会」となっている。一般高齢者では「自治会や老人クラブなどの世話」や「地域の敬老行事」が若年者に比べて多く、若年者では「参加したことがない」が一般高齢者に比べてやや多い。

(3) 仕事の経験や技術を活かしたいか

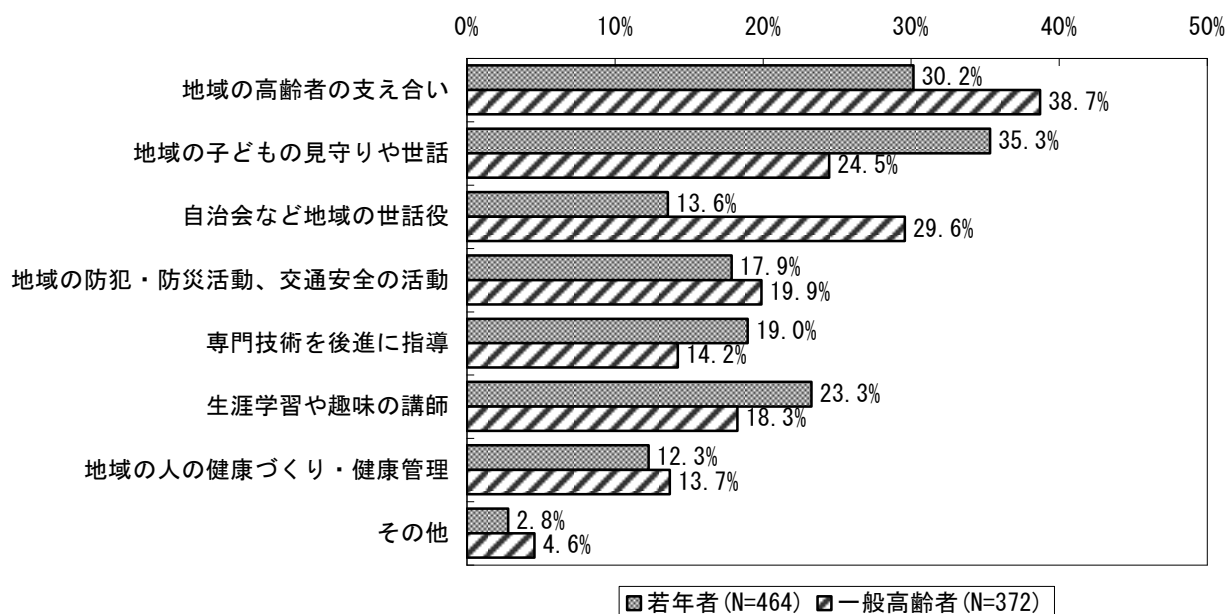
図表614 高齢期に身につけた経験等を活かしたいか



高齢期に、これまでの生活で身につけた経験や技術を活かしたいかどうかについては、「ぜひ活かしたい」と「活かしたい」を合わせた活かす意欲のある人は、若年者（47.5%）が一般高齢者（36.4%）に比べて多い。

(4) どんな場面で経験や技術を活かしたいか

図表615 経験等を活かしたい場面（複数回答）

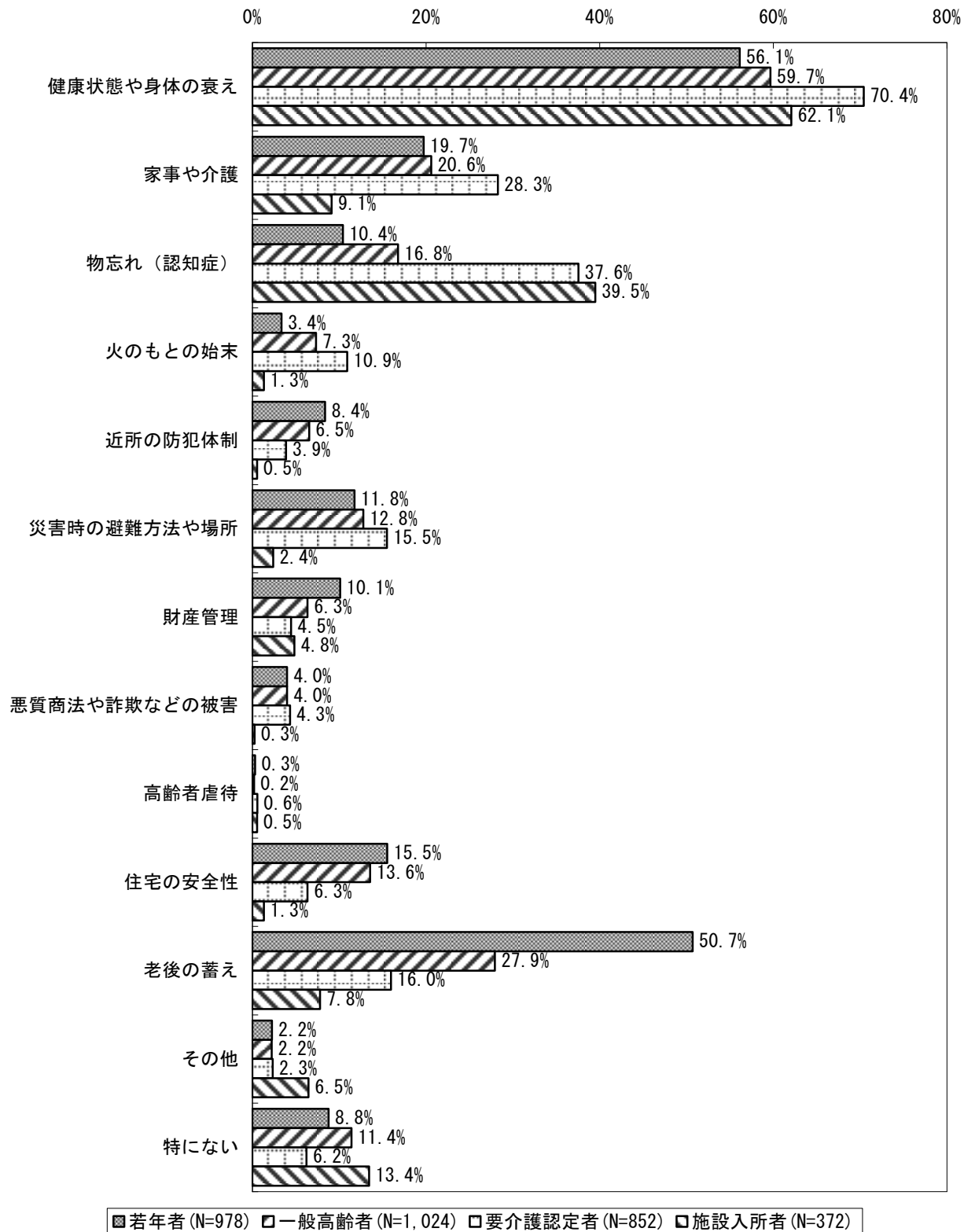


これまでの生活で身につけた経験や技術を活かしたい場面については、若年者では「地域の子どもの見守りや世話」が最も多く、次いで「地域の高齢者の支え合い」となっている。一般高齢者では「地域の高齢者の支え合い」が最も多く、次いで「自治会など地域の世話役」となっている。「地域の子どもの見守りや世話」や「専門技術を後進に指導」、「生涯学習や趣味の講師」は若年者が一般高齢者に比べて多い。

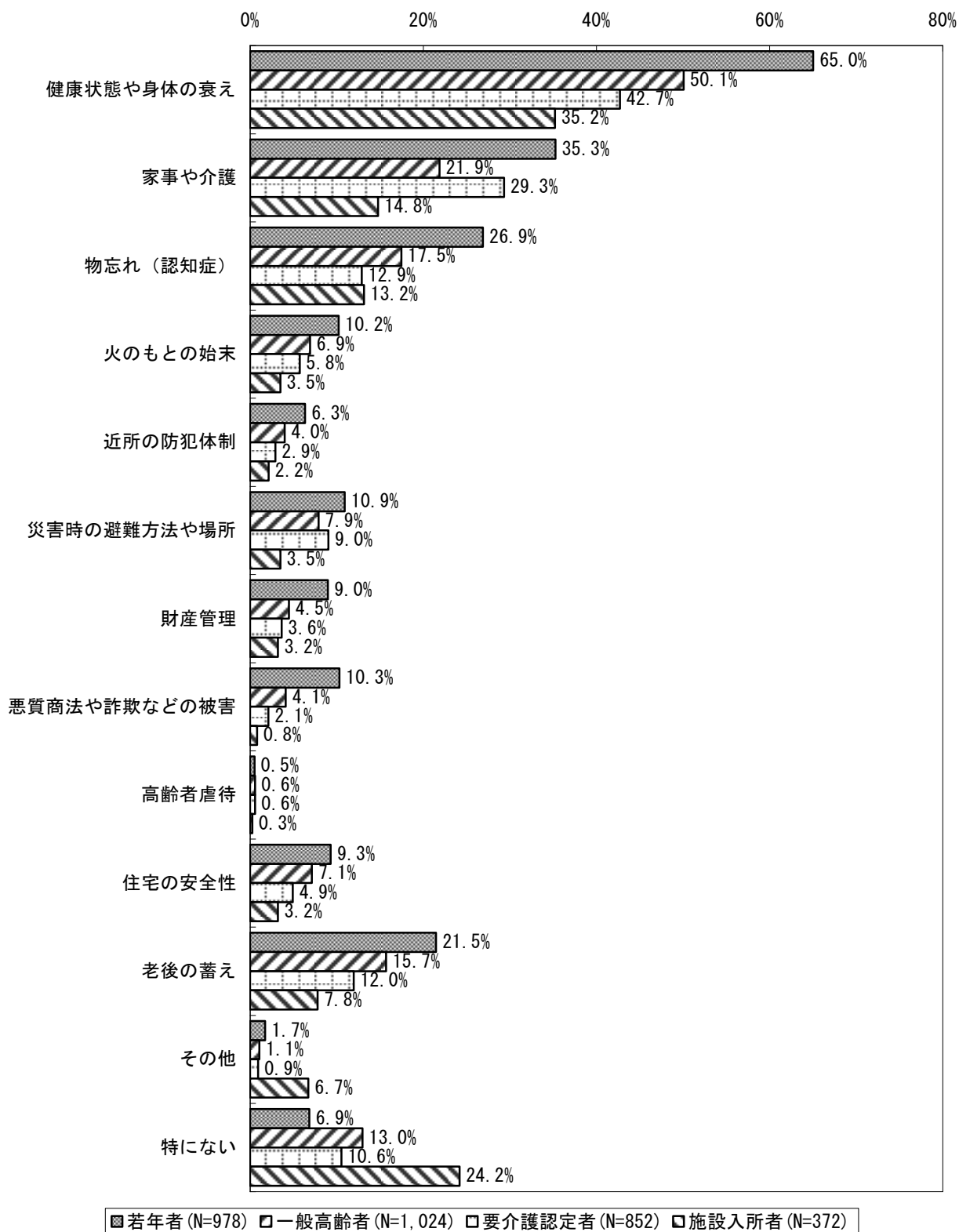
7 安全・安心

(1) 自身や身近な人が抱える不安の内容

図表616 回答者自身が困っていること（複数回答）



図表617 身近な人が困っていること（複数回答）

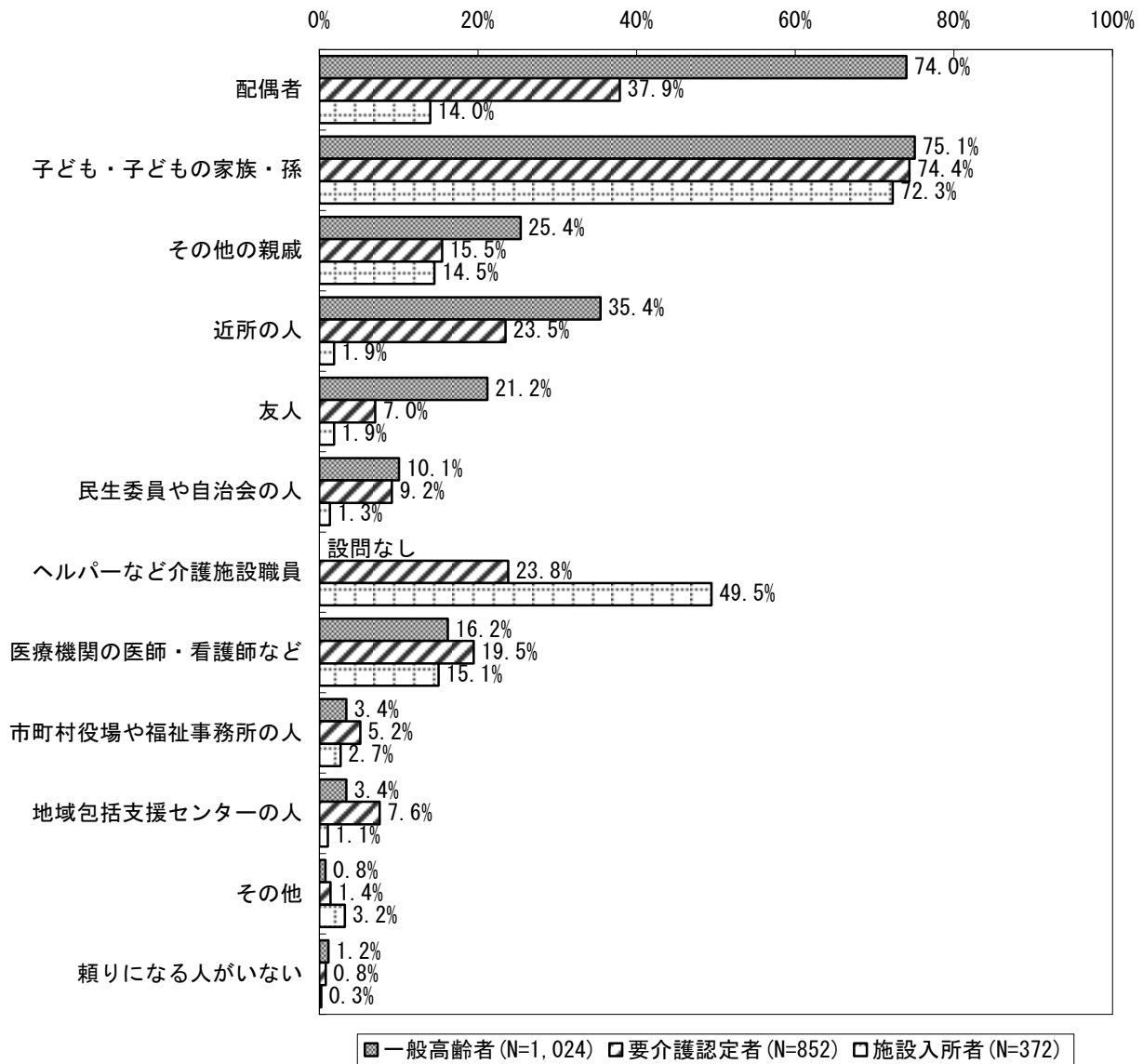


自身が抱える不安については、いずれの対象でも「健康状態や身体の衰え」が最も多く、次いで、若年者と一般高齢者では「老後の蓄え」、要介護認定者と施設入所者では「物忘れ（認知症）」となっている。「住宅の安全性」は、施設入所者よりも要介護認定者、要介護認定者よりも一般高齢者、一般高齢者よりも若年者で多い傾向にある。

身近な人が抱える不安については、いずれの対象でも「健康状態や身体の衰え」が最も多く、次いで「家事や介護」となっており、前者は、施設入所者よりも要介護認定者、要介護認定者よりも一般高齢者、一般高齢者よりも若年者で多い傾向にある。

(2) 緊急時に頼りになる人

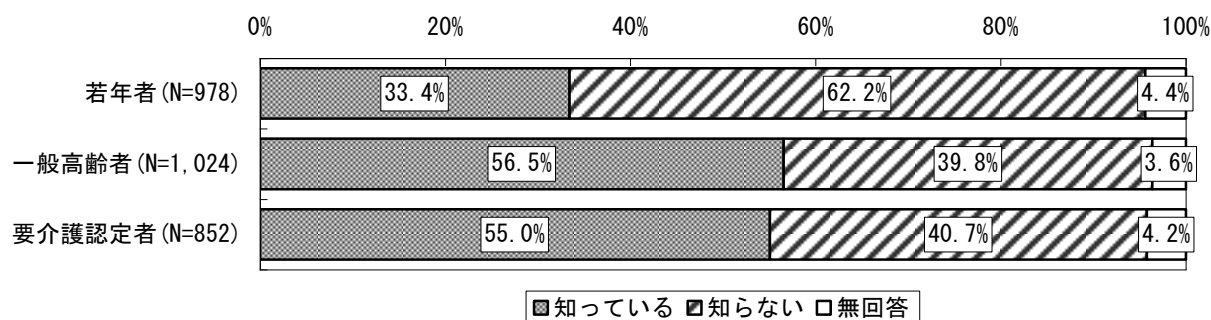
図表618 緊急時に頼りにできる人は誰か（複数回答）



緊急時に頼りになる人については、いずれの対象でも「子ども・子どもの家族・孫」が最も多く、次いで、一般高齢者と要介護認定者では「配偶者」、施設入所者では「ヘルパーなど介護施設職員」となっている。「配偶者」・「子ども・子どもの家族・孫」・「その他の親戚」・「近所の人」・「友人」・「民生委員や自治会の人」は、いずれの施設入所者よりも要介護認定者、要介護認定者よりも一般高齢者で多い傾向にある。

(3) 地区担当民生委員の認知状況

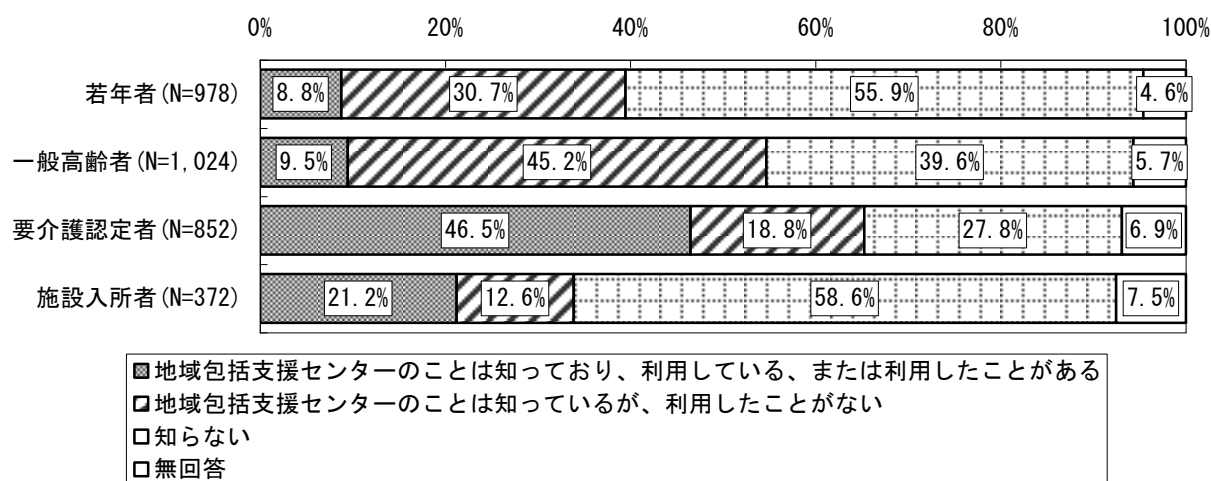
図表619 地区担当の民生委員の認知



地区を担当する民生委員の認知状況については、一般高齢者と要介護認定者では「知っている」が過半数を占めているが、若年者では33.4%にとどまり、「知らない」が62.2%にのぼる。

(4) 地域包括支援センターの認知及び利用状況

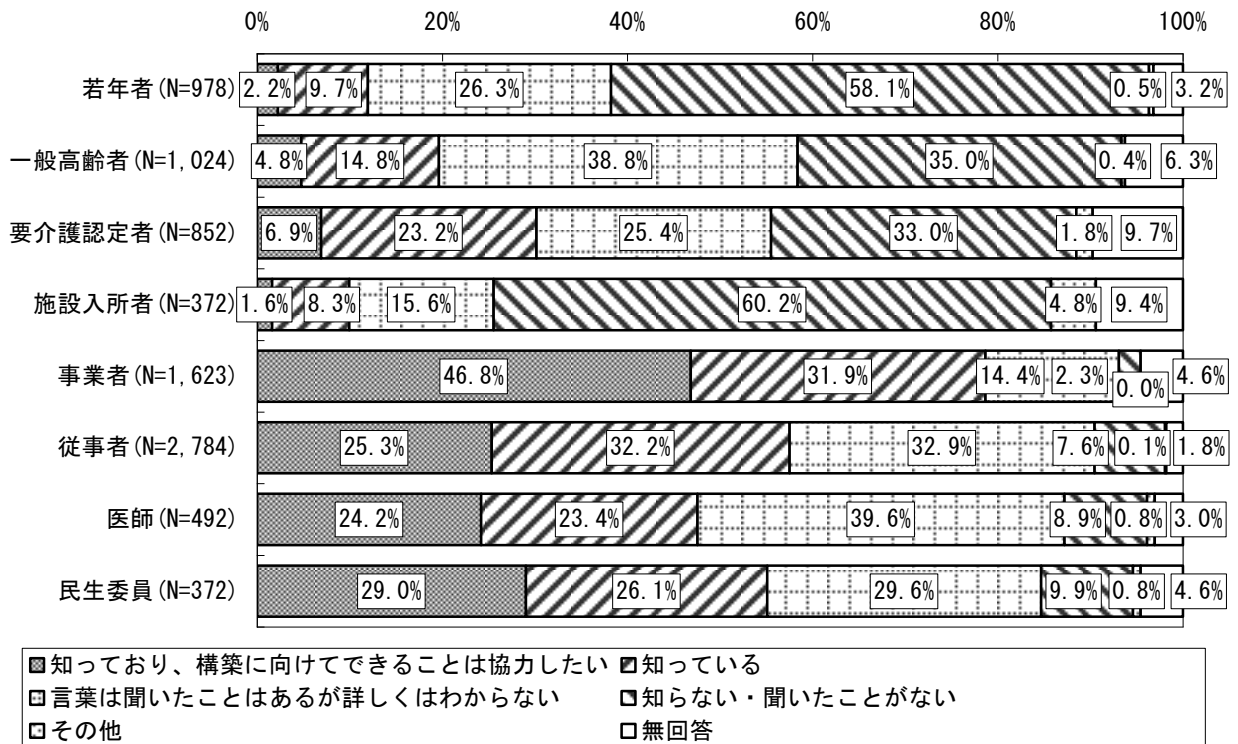
図表620 地域包括支援センターの認知



地域包括支援センターの認知・利用状況については、若年者と施設入所者では「知らない」が過半数を占めて最も多い。他方、一般高齢者では「地域包括支援センターのことは知っているが、利用したことがない」、要介護認定者では「地域包括支援センターのことは知っており、利用している、または利用したことがある」がそれぞれ最も多い。

(5) 地域包括ケアシステムの認知度

図表621 地域包括ケアシステムの認知

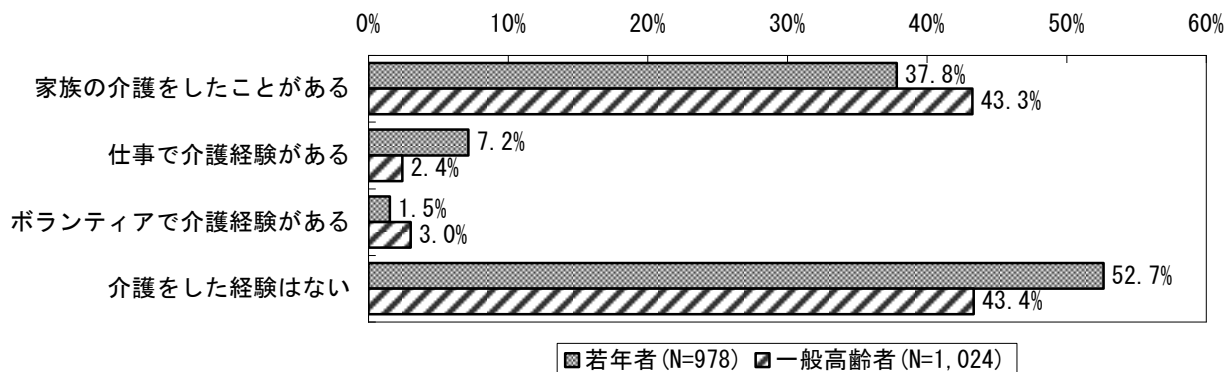


地域包括ケアシステムの認知状況については、「知っており、構築に向けてできることは協力したい」はサービス事業者、「言葉は聞いたことはあるが詳しくはわからない」は一般高齢者・サービス従事者・医師・民生委員、「知らない・聞いたことがない」は若年者・要介護認定者・施設入所者でそれぞれ最も多い。「知っており、構築に向けてできることは協力したい」と「知っている」を合わせた地域包括ケアシステムを知っている人は、若年者が11.9%、一般高齢者が19.6%、要介護認定者が30.1%、施設入所者が9.9%、サービス事業者が78.7%、サービス従事者が57.5%、医師が47.6%、民生委員が55.1%となっている。

8 介護保険や介護など

(1) 介護経験の有無

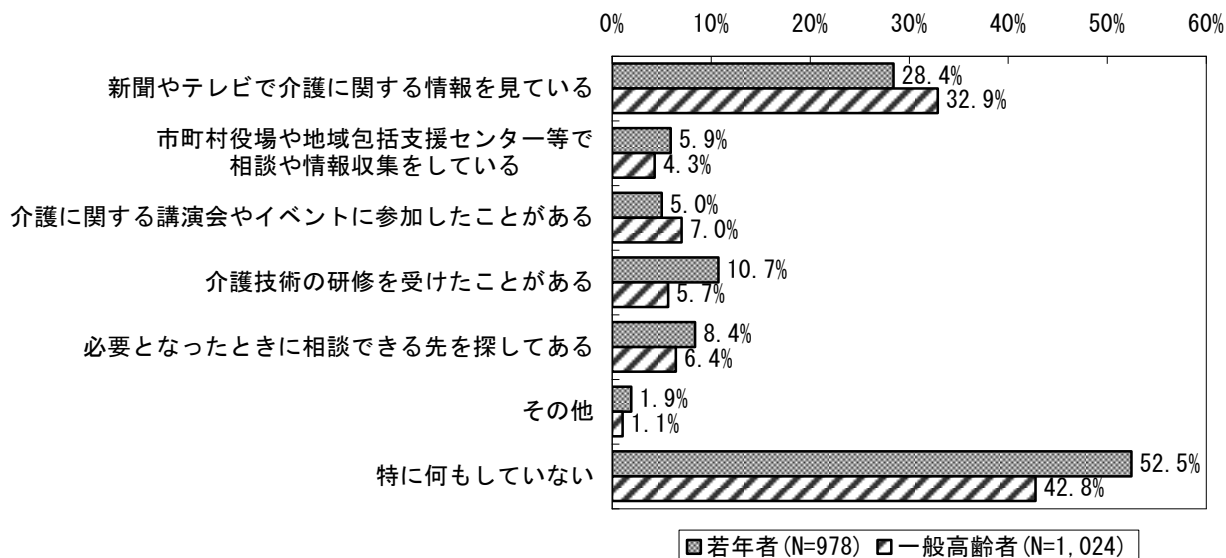
図表622 介護を経験したことがあるか



介護経験の有無については、「家族の介護をしたことがある」は、一般高齢者（43.3%）が若年者（37.8%）に比べて多い。逆に、「介護をした経験はない」は、若年者（52.7%）が一般高齢者（43.4%）に比べて多い。

(2) 介護について何かしていること

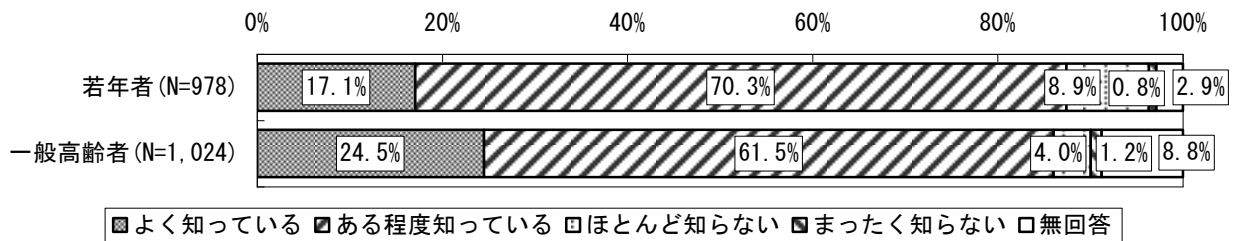
図表623 介護について何かしていること（複数回答）



介護について何かしていることについては、若年者・一般高齢者ともに「特に何もしていない」が最も多いが、若年者では5割を超えている。「新聞やテレビで介護に関する情報を見ている」は一般高齢者が若年者に比べて多く、「介護技術の研修を受けたことがある」は若年者が一般高齢者に比べて多い。

(3) 認知症の認知度

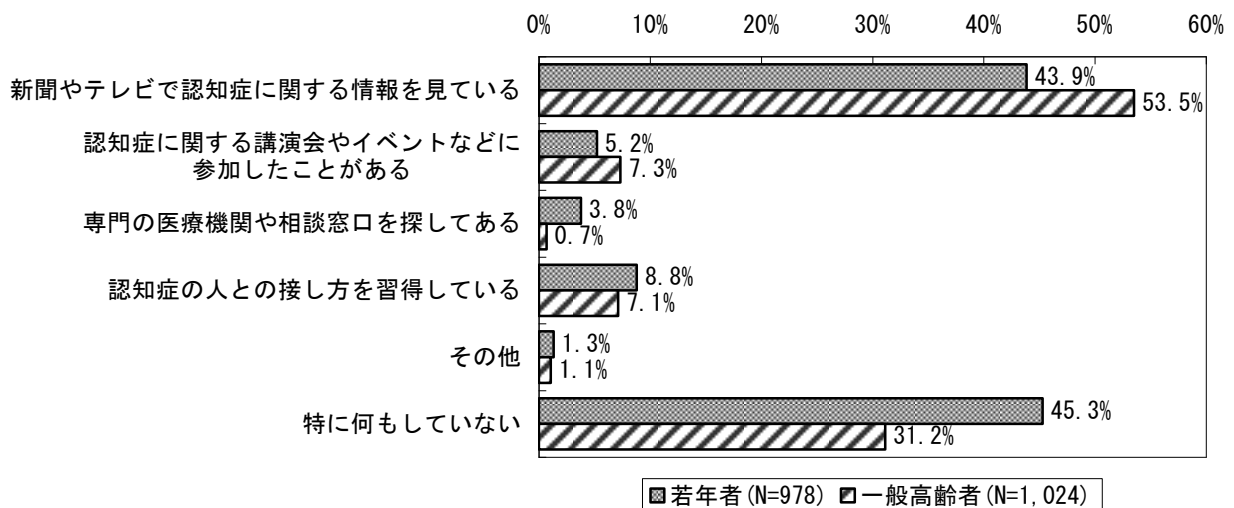
図表624 認知症がどのような病気か知っているか



「認知症」がどのような病気か知っているかについては、「よく知っている」は、一般高齢者（24.5%）が若年者（17.1%）に比べて多く、一般高齢者ほど詳しく知っている人が多いが、「ある程度知っている」までを含めた「知っている」人は、若年者が87.4%、一般高齢者が86.0%で大差はない。

(4) 認知症について何かしていること

図表625 認知症について何かしていること（複数回答）



認知症について何かしていることについては、若年者では「特に何もしていない」が最も多く、次いで「新聞やテレビで認知症に関する情報を見ている」となっているが、大差なく特に多い。他方、一般高齢者では「新聞やテレビで認知症に関する情報を見ている」が5割を超えて最も多く、次いで「特に何もしていない」となっている。

【高齢者のCPSレベル推計】

一般高齢者・要介護認定者・施設入所者について、認知機能の障害程度の指標に準じた設問に対する回答内容により、認知機能の障害程度を評価した。なお、評価方法や、CPSレベルなどの用語については、以下に資料を付した。

図表626 回答の傾向からみた一般高齢者・要介護認定者・施設入所者のCPSレベル

CPSレベル	一般高齢者		要介護認定者		施設入所者	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0レベル	930	90.8%	237	27.8%	42	11.3%
1レベル	52	5.1%	185	21.7%	33	8.9%
2レベル	12	1.2%	147	17.3%	62	16.7%
3レベル	3	0.3%	105	12.3%	58	15.6%
4レベル	1	0.1%	44	5.2%	47	12.6%
5レベル	3	0.3%	60	7.0%	60	16.1%
6レベル	1	0.1%	28	3.3%	58	15.6%
無回答	22	2.1%	46	5.4%	12	3.2%
合計	1,024	100.0%	852	100.0%	372	100.0%

【回答者別にみた調査対象者のCPSレベル】

それぞれの調査対象において、回答者別に、調査対象者のCPSレベルをみた。

図表627 回答者別 調査対象者のCPSレベル 一般高齢者

認知機能障害程度 (CPS)	0レベル	1レベル	2レベル	3レベル	4レベル	5レベル	6レベル	無回答	合計
あて名のご本人	825	40	9	1	0	0	0	15	890
	92.7%	4.5%	1.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	100.0%
あて名のご本人以外	15	5	1	2	1	1	1	1	27
	55.6%	18.5%	3.7%	7.4%	3.7%	3.7%	3.7%	3.7%	100.0%
無回答	90	7	2	0	0	2	0	6	107
	84.1%	6.5%	1.9%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	5.6%	100.0%
合計	930	52	12	3	1	3	1	22	1,024
	90.8%	5.1%	1.2%	0.3%	0.1%	0.3%	0.1%	2.1%	100.0%

図表628 回答者別 調査対象者のCPSレベル 要介護認定者

認知機能障害程度 (CPS)	0レベル	1レベル	2レベル	3レベル	4レベル	5レベル	6レベル	無回答	合計
あて名のご本人	166	114	54	14	2	3	0	15	368
	45.1%	31.0%	14.7%	3.8%	0.5%	0.8%	0.0%	4.1%	100.0%
あて名のご本人の家族・親族	40	43	76	72	38	49	25	17	360
	11.1%	11.9%	21.1%	20.0%	10.6%	13.6%	6.9%	4.7%	100.0%
その他	0	2	3	1	1	0	0	0	7
	0.0%	28.6%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	31	26	14	18	3	8	3	14	117
	26.5%	22.2%	12.0%	15.4%	2.6%	6.8%	2.6%	12.0%	100.0%
合計	237	185	147	105	44	60	28	46	852
	27.8%	21.7%	17.3%	12.3%	5.2%	7.0%	3.3%	5.4%	100.0%

図表629 回答者別 調査対象者のCPSレベル 施設入所者

認知機能障害程度 (CPS)	0レベル	1レベル	2レベル	3レベル	4レベル	5レベル	6レベル	無回答	合計
あて名のご本人	14 35.0%	7 17.5%	9 22.5%	4 10.0%	0 0.0%	3 7.5%	1 2.5%	2 5.0%	40 100.0%
あて名のご本人の家族・ 親族	17 8.3%	17 8.3%	29 14.2%	37 18.1%	28 13.7%	33 16.2%	36 17.6%	7 3.4%	204 100.0%
入所施設の職員	8 8.0%	7 7.0%	17 17.0%	13 13.0%	17 17.0%	22 22.0%	16 16.0%	0 0.0%	100 100.0%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	3 10.7%	2 7.1%	7 25.0%	4 14.3%	2 7.1%	2 7.1%	5 17.9%	3 10.7%	28 100.0%
合計	42 11.3%	33 8.9%	62 16.7%	58 15.6%	47 12.6%	60 16.1%	58 15.6%	12 3.2%	372 100.0%

【資料：認知機能障害程度 (CPS) に準じた設問と評価】

今回の調査には、認知機能の障害程度の指標として有用とされるCPS (Cognitive Performance Scale) に準じた設問が含まれている。

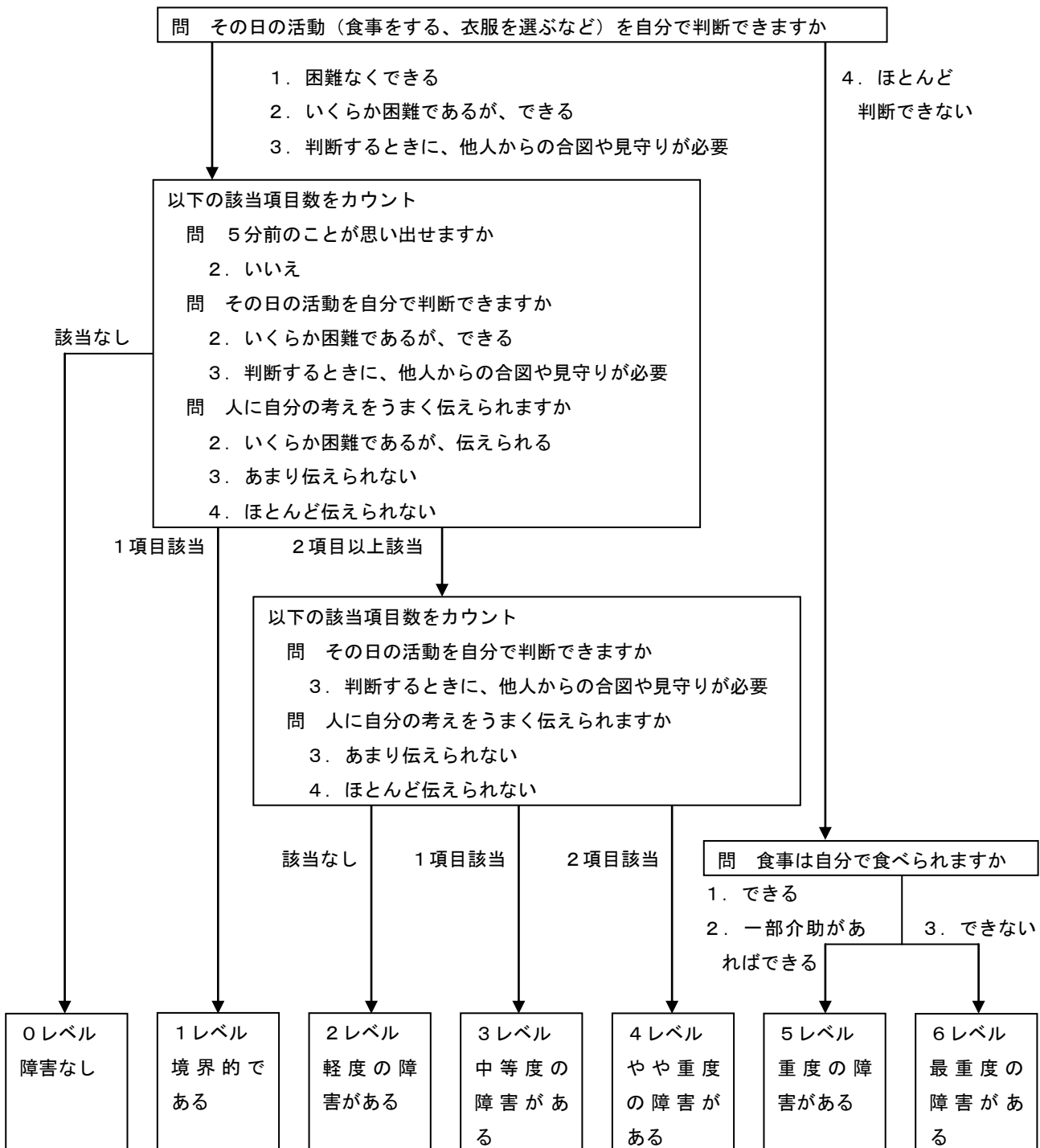
設問としては一般高齢者用・要介護認定者用・施設入所者用の調査票にある下表の4つの設問である。内容的には要介護認定調査の主治医意見書欄にある内容である。

図表630 CPSに準じた設問

設問項目	一般高齢者	要介護認定者	施設入所者
	設問番号	設問番号	設問番号
5分前のことが思い出せますか	14	18	15
その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど） を自分で判断できますか	15	19	16
食事は自分で食べられますか	16	20	17
人に自分の考えをうまく伝えられますか	17	21	18

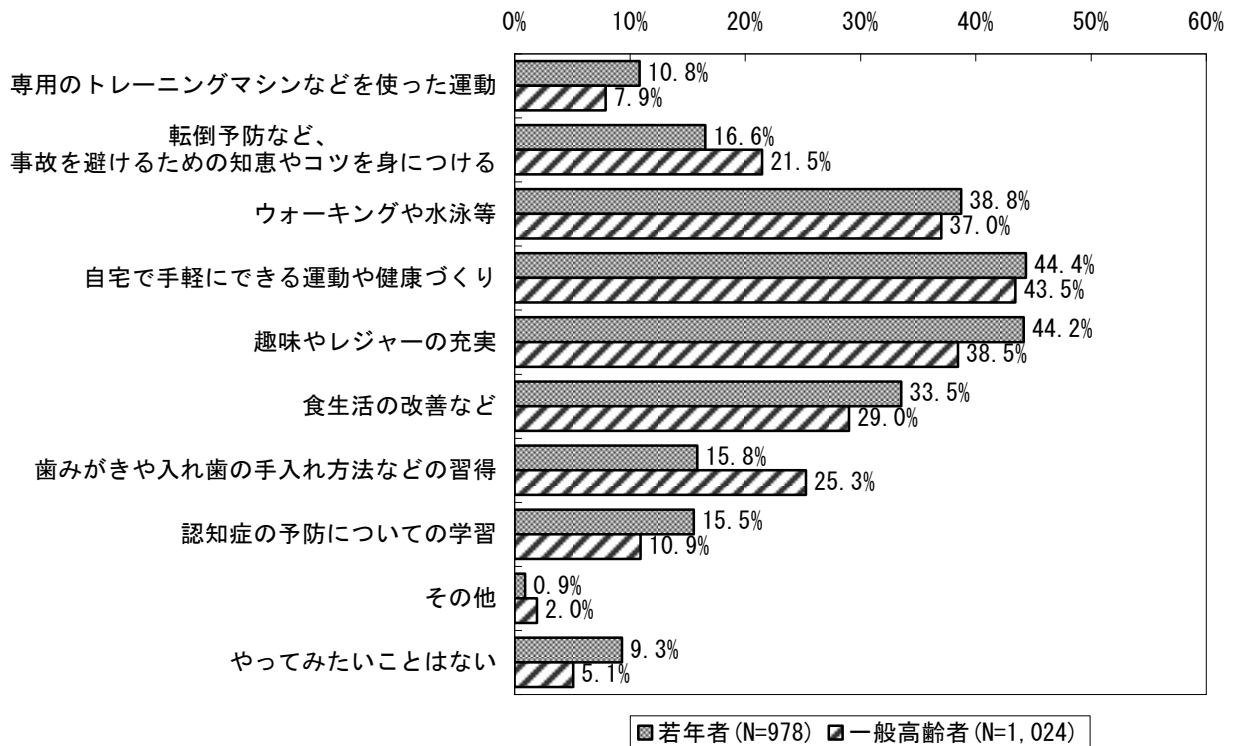
本来は観察者による評価がされることにより客観的な指標となるが、今回は自記式の調査ではあるものの、下図にあるように比較的簡易に認知機能の障害程度の評価が可能であることから、調査票に盛り込み、設問に対する回答内容により、0レベル（障害なし）から6レベル（再重度の障害がある）までに評価を行った。

図表631 認知機能の障害程度の評価方法



(5) 介護予防のための運動や健康づくりの意向

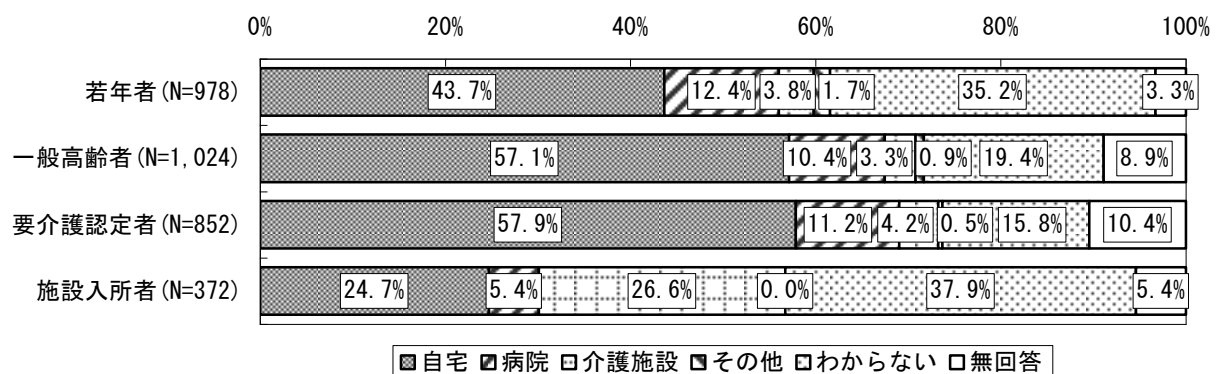
図表632 介護予防のために取り組んでいること（複数回答）



介護予防のための運動や健康づくりの取組の意向については、若年者・一般高齢者ともに「自宅で手軽にできる運動や健康づくり」が最も多く、以下、「趣味やレジャーの充実」、「ウォーキングや水泳等」などとなっている。「趣味やレジャーの充実」や「食生活の改善など」、「認知症の予防についての学習」は若年者が一般高齢者に比べて多く、「転倒予防など、事故を避けるための知恵やコツを身につける」や「歯みがきや入れ歯の手入れ方法などの習得」は一般高齢者が若年者に比べて多い。

(6) 自身が最期を迎えたい場所

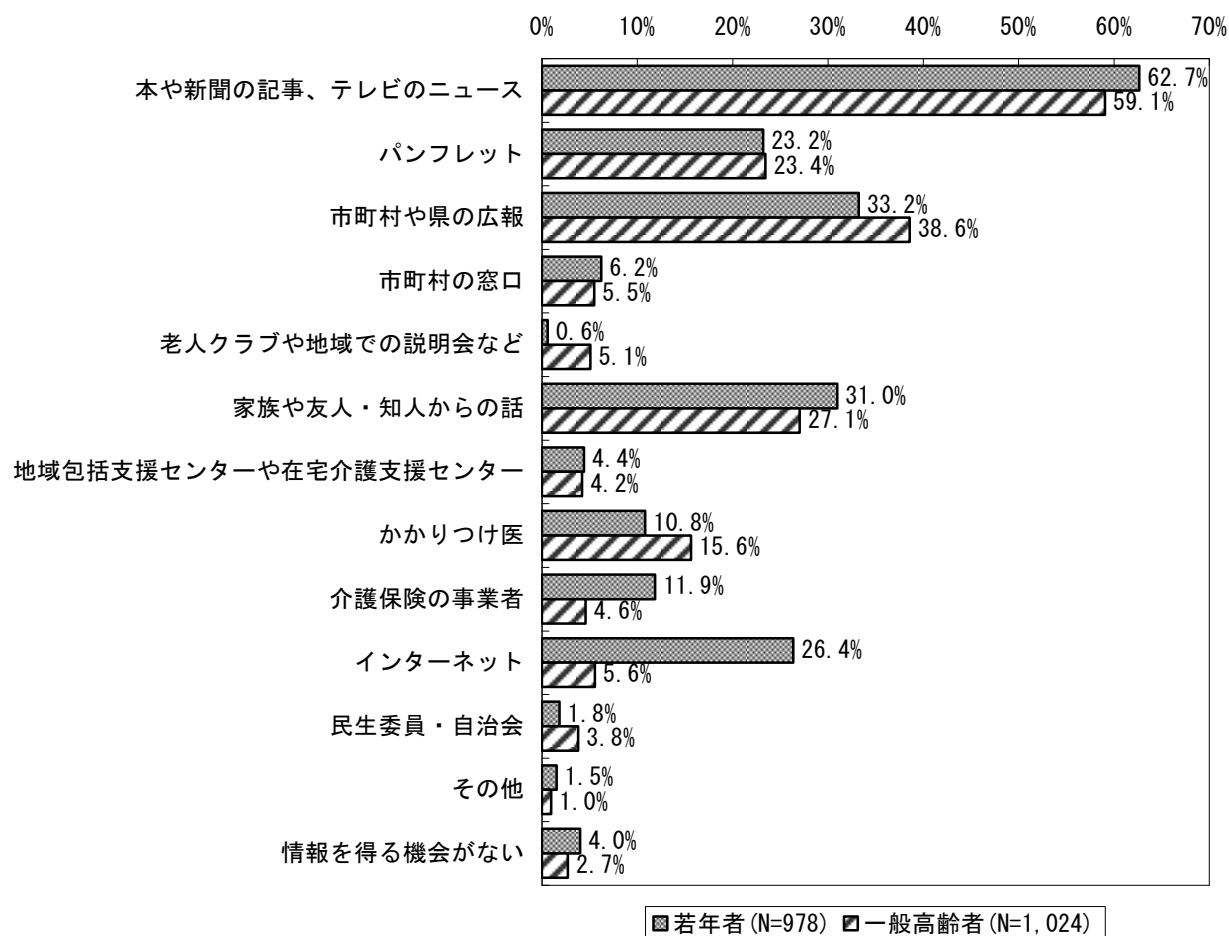
図表633 どこで最期を迎えたいか



自身が最期を迎えたい場所については、若年者・一般高齢者・要介護認定者では「自宅」が最も多く、施設入所者では「わからない」が最も多いが、これに次いで「介護施設」が続いている。

(7) 保健・医療・福祉・介護に関する情報の入手手段

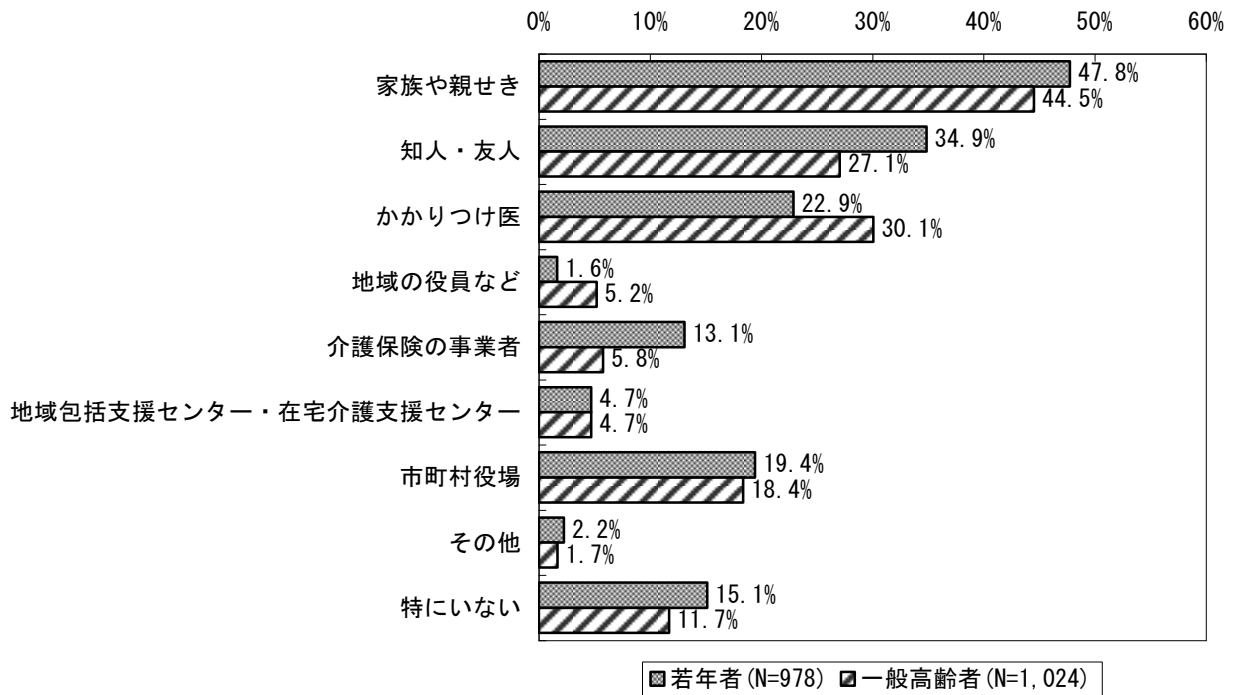
図表634 介護や保健、医療等の情報入手手段（複数回答）



保健・医療・福祉・介護に関する情報の入手手段については、若年者・一般高齢者ともに「本や新聞の記事、テレビのニュース」が最も多く、以下、「市町村や県の広報」、「家族や友人・知人からの話」などとなっている。「市町村や県の広報」と「かかりつけ医」は、一般高齢者が若年者に比べて多い。他の入手手段は、若年者が一般高齢者に比べて多く、「インターネット」や「介護保険の事業者」では差が大きい。

(8) 保健・医療・福祉・介護についてわからないことがあるときの相談相手

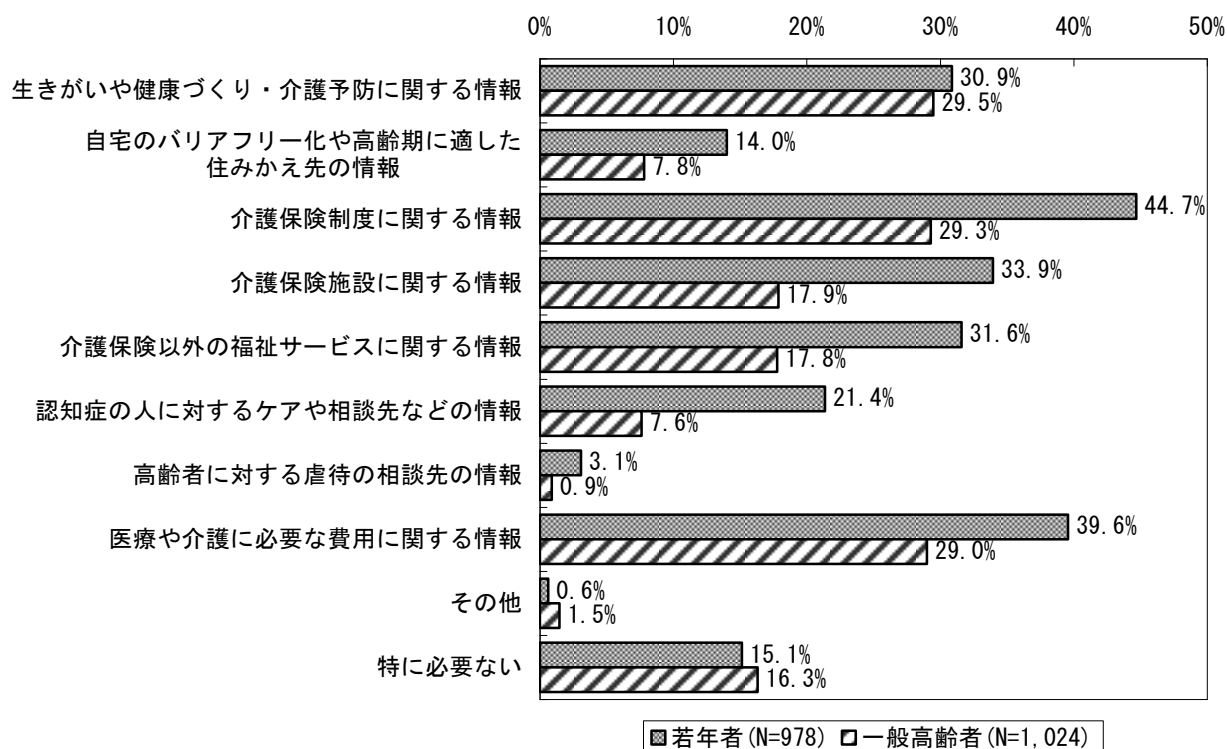
図表635 介護や保健、医療等の相談相手（複数回答）



保健・医療・福祉・介護についてわからないことがあるときの相談相手については、若年者・一般高齢者ともに「家族や親せき」が最も多い。専門の相談窓口である「市町村役場」は、若年者が19.4%、一般高齢者が18.4%、「地域包括支援センター・在宅介護支援センター」は、若年者・一般高齢者ともに4.7%となっており、いずれも回答率が低く、若年者と一般高齢者との大差もない。

(9) 保健・医療・福祉・介護について必要としている情報

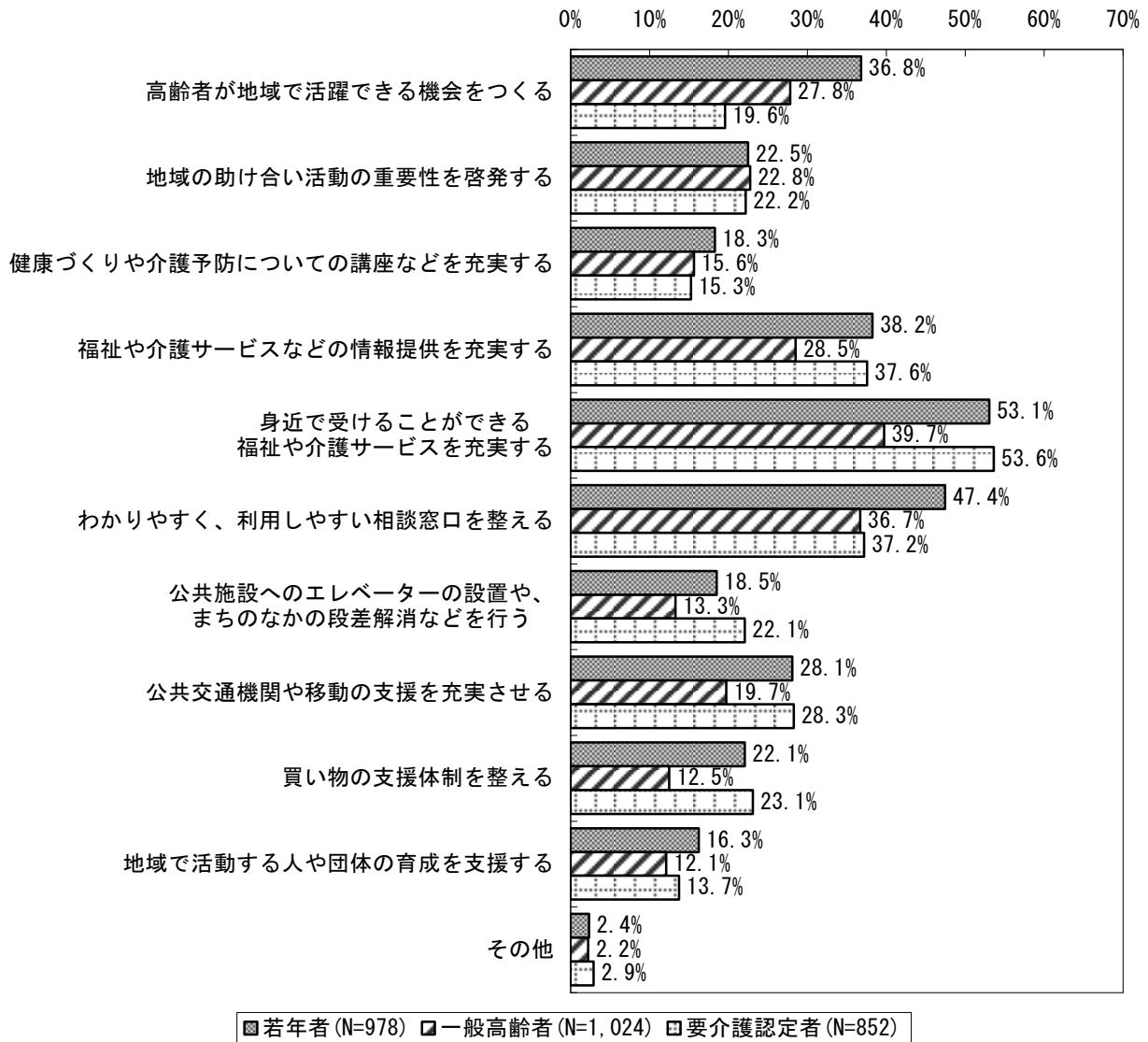
図表636 介護や保健、医療等で必要としている情報（複数回答）



保健・医療・福祉・介護について必要としている情報については、若年者では「介護保険制度に関する情報」が最も多く、以下、「医療や介護に必要な費用に関する情報」、「介護保険施設に関する情報」、「介護保険以外の福祉サービスに関する情報」などとなっている。一般高齢者では「生きがいや健康づくり・介護予防に関する情報」が最も多く、以下、「介護保険制度に関する情報」、「医療や介護に必要な費用に関する情報」などとなっている。ほぼすべての項目で、若年者が一般高齢者に比べて多く、若年層ほど情報を必要としている傾向が強いことが伺える。

(10) 高齢者が暮らしやすいまちをつくるために行政が取り組むべき事項

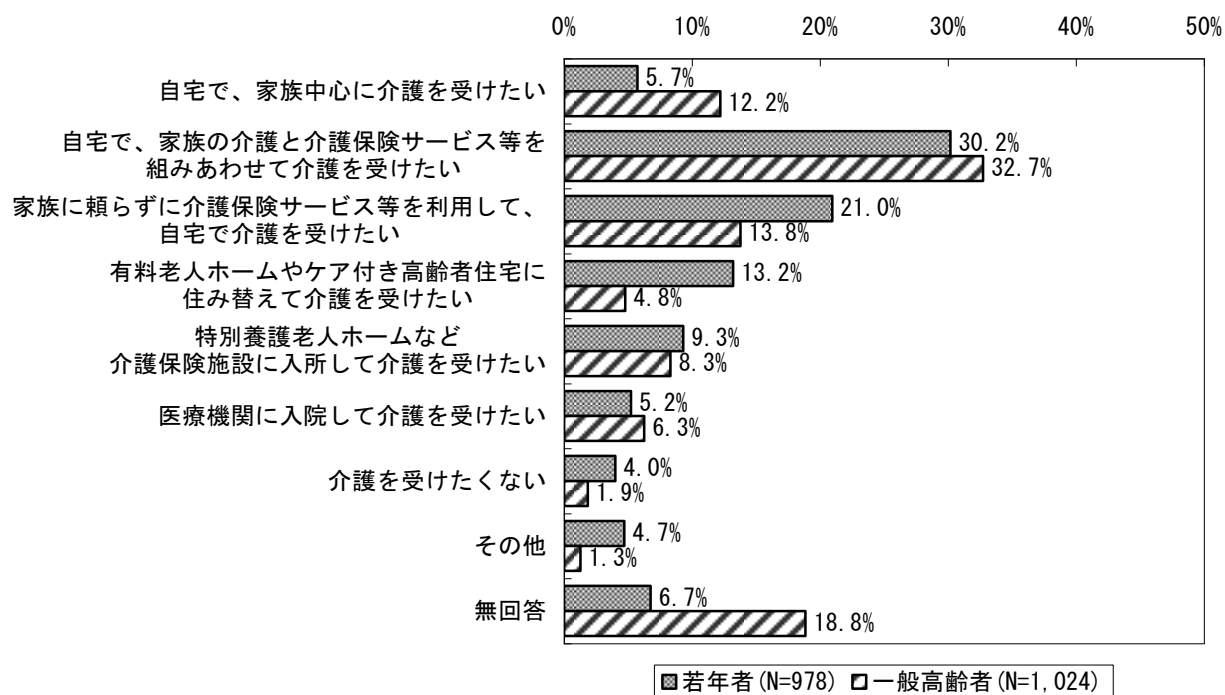
図表637 行政が重点的に取り組むべき事項（複数回答）



高齢者が暮らしやすいまちをつくるために行政が取り組むべき事項については、若年者・一般高齢者・要介護認定者ともに「身近で受けることができる福祉や介護サービスを充実する」・「わかりやすく、利用しやすい相談窓口を整える」・「福祉や介護サービスなどの情報提供を充実する」が上位3項目で共通している。「高齢者が地域で活躍できる機会をつくる」は、要介護認定者よりも一般高齢者、一般高齢者よりも若年者で多い傾向にある。

(11) 介護が必要になったときにどのような生活・介護を望むか

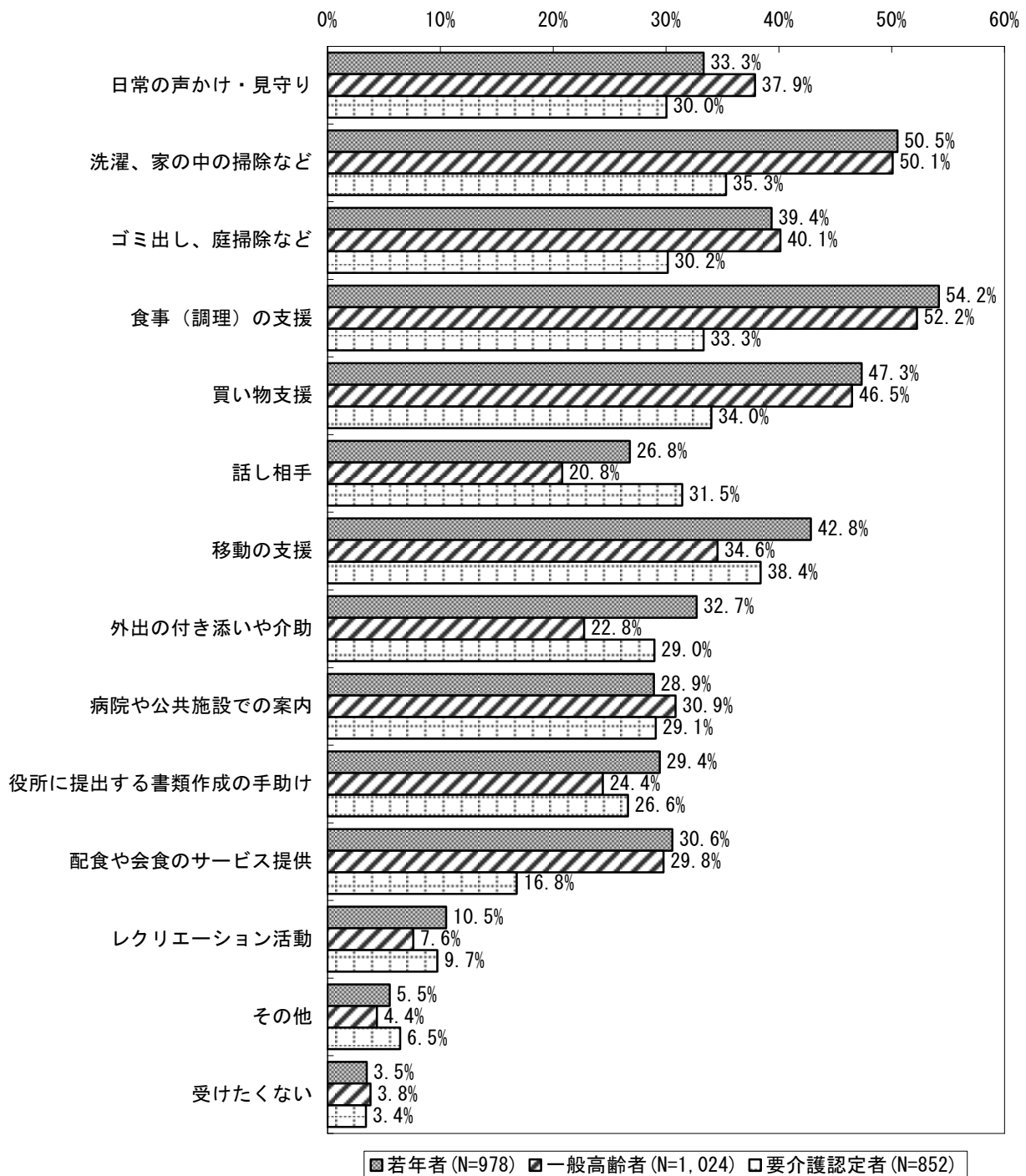
図表638 自身に介護が必要になったときに希望する介護



介護が必要になったときにどのような生活・介護を望むかについては、若年者・一般高齢者ともに「自宅で、家族の介護と介護保険サービス等を組みあわせて介護を受けたい」が最も多く、若年者と一般高齢者との大差もない。「自宅で、家族中心に介護を受けたい」は、一般高齢者が若年者に比べて多く、「家族に頼らずに介護保険サービス等を利用して、自宅で介護を受けたい」や「有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい」は、若年者が一般高齢者に比べて多い。在宅生活・介護希望者は、若年者が56.9%、一般高齢者が58.7%で大差はない。

(12) 日常的に受けたいと思う支援

図表639 自身に介護が必要になったときに日常的に受けたい支援（複数回答）

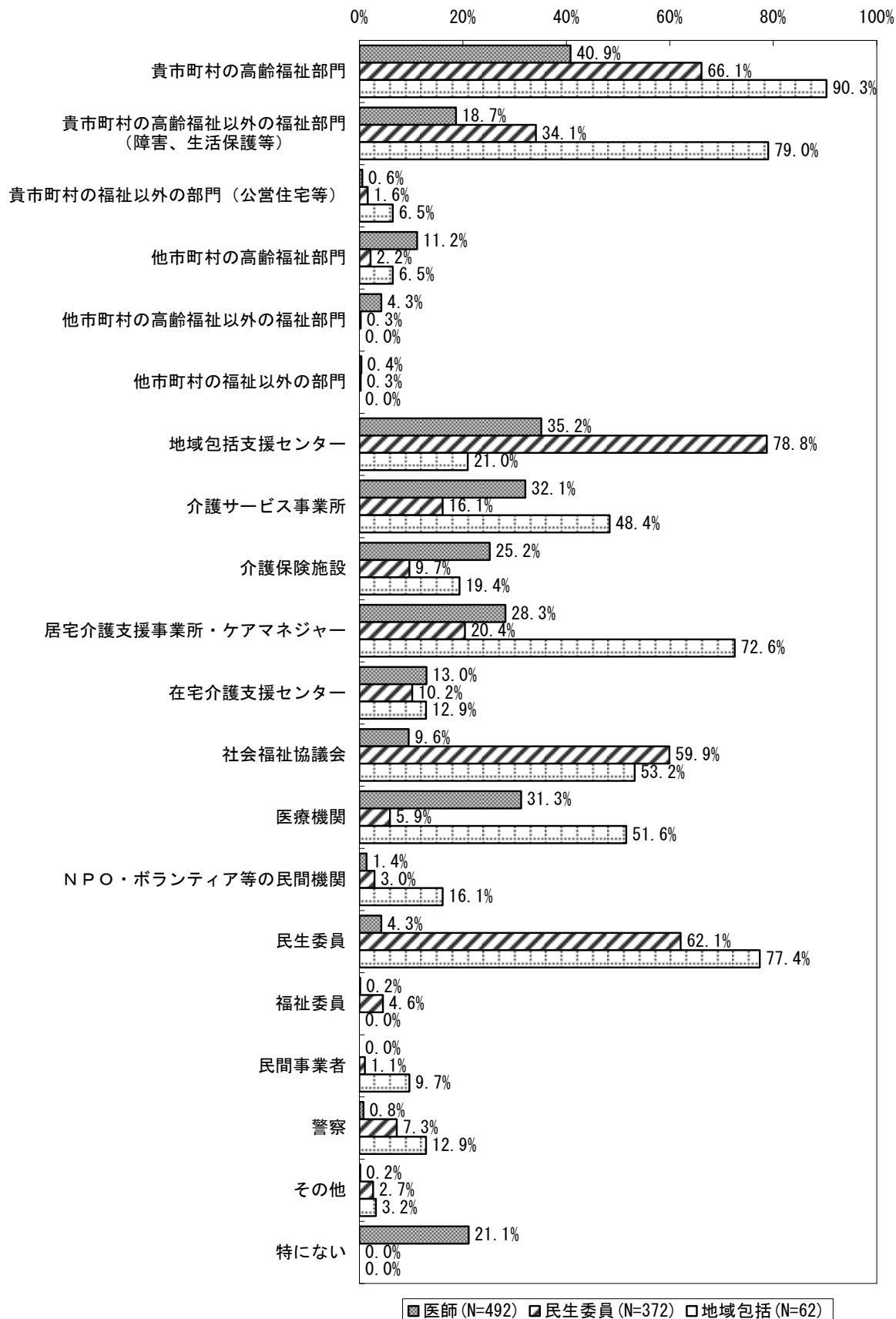


日常的に受けたいと思う支援については、若年者と一般高齢者では「食事（調理）の支援」が最も多く、以下、「洗濯、家の中の掃除など」、「買い物支援」と続いており、上位3項目は共通している。これらは、いずれも要介護認定者が3割台であるのに比べて多い。また、「配食や会食のサービス提供」も、要介護認定者よりも一般高齢者、一般高齢者よりも若年者で多い傾向にある。他方、要介護認定者では「移動の支援」が最も多く、以下、「洗濯、家の中の掃除など」、「買い物支援」と続いている。要介護認定者では、「話し相手」が31.5%で、若年者と一般高齢者が2割台であるのに比べて多い。

9 地域包括ケア推進体制

(1) 高齢者支援において連携をしている機関・窓口

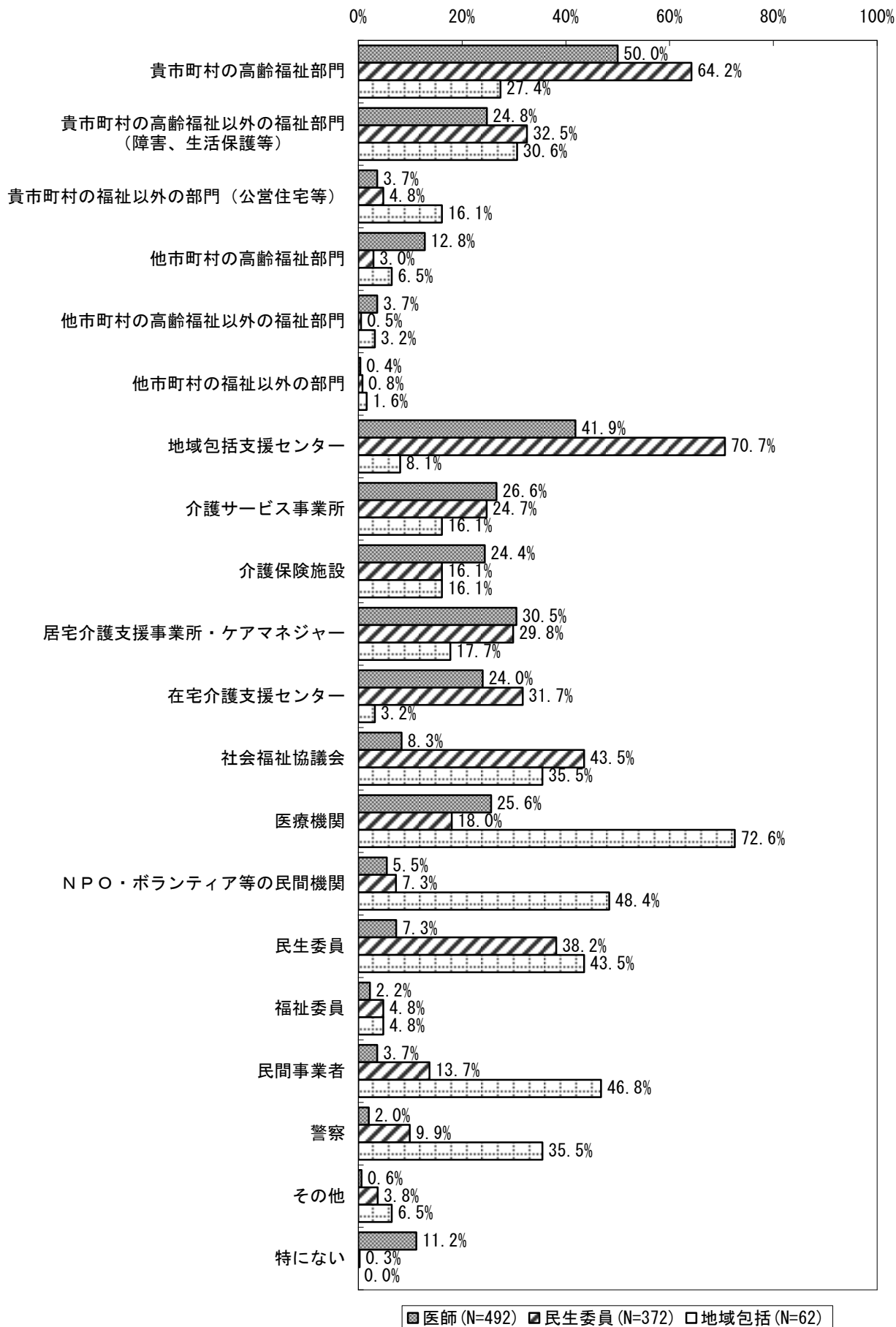
図表640 高齢者支援で現在連携している機関・窓口の種類（複数回答）



高齢者支援において連携をしている機関・窓口については、医師・民生委員・地域包括支援センターともに「貴市町村（自市町村）の高齢福祉部門」が最も多いが、医師よりも民生委員、民生委員よりも地域包括支援センターで多い傾向にある。このほか、医師では「介護保険施設」が民生委員や地域包括支援センターに比べて多いが、「特になし」と連携を行っていないケースも21.1%と多くみられる。民生委員では、「地域包括支援センター」や「社会福祉協議会」のほか、「民生委員」同士での連携も多くあげられている。地域包括支援センターでは、「貴市町村（自市町村）の高齢福祉以外の福祉部門（障害、生活保護等）」や「居宅介護支援事業所・ケアマネジャー」が医師や民生委員に比べて多くあげられており、「社会福祉協議会」や「民生委員」も、民生委員と同様に多くあげられている。

(2) 高齢者支援において、連携を強めなければならない機関・窓口

図表641 高齢者支援で今後連携を強める必要があると思う機関・窓口（複数回答）



高齢者支援において、連携を強めなければならない機関・窓口については、医師では「貴市町村（自市町村）の高齢福祉部門」、民生委員では「地域包括支援センター」、地域包括支援センターでは「医療機関」がそれぞれ最も多い。医師では「介護保険施設」が民生委員や地域包括支援センターに比べて多いが、「特にない」と連携を行う必要性がないという意見も11.2%と多くみられる。民生委員では「貴市町村（自市町村）の高齢福祉部門」や「地域包括支援センター」、「在宅介護支援センター」、「社会福祉協議会」が医師や地域包括支援センターに比べて多くあげられており、現在連携を行っている期間・窓口についてもより一層の連携強化の必要性が認識されていると言える。地域包括支援センターでは「NPO・ボランティア等の民間機関」や「民生委員」、「民間事業者」、「警察」が医師や民生委員に比べて多くあげられており、特に「NPO・ボランティア等の民間機関」や「民間事業者」、「警察」は、現在十分な連携が行われていないことを踏まえ、連携の必要性が重視されていると言える。